三月八日　祝祭日唱歌録音に参加
三月二十三日　「高等科兒童入園考査ヲ行フ（初等科ハ本年ハ募集セズ）」（『同聲會室日誌』より）
三月二十五日　卒業式・卒業演奏
四月八日　「高等科入園式ヲ行フ、本年ヨリ神田分教場ニ於イテ授業ヲ行フ」（『同聲會室日誌』より）
九月　授業中止

（二）関係記事

上野兒童音樂學園案内

一、設立の趣意

兒童の生活に於て音樂が極めて重要なる教育的價値を有することは遍く識者の認むる所であるが、輓近の教育思潮では、音樂の如き藝術は、其才能に惠まれ之に趣味を有する兒童に對し、須らく其の早期より組織的に教育を施さなければならぬことを强調してゐる。されば歐米諸國に於ては、既に夙に兒童音樂學校の設けがあつて、兒童の音樂的才能を啓培するとともに、國民たるの教養を高むるため、組織的に音樂教育を實施してゐるのである。勿論茲に謂ふ音樂教育とは、專門の教育を指すものではなくて、兒童の音樂生活を指導し、國民たる教養を藝術方面に於て高むる意味の教育であるから、敢て小學校に於ける基礎教育を破壞するものでないのみならず、寧ろ之と協調し、更に之を助勢して國民教育の徹底に寄與せんとするものである。兒童音樂學園はこの旨趣に基いて設立するのであつて、我が國現代の教育に幾分の進展を促したいことを期するものである。

二、學園の組織

一、名　稱　上野兒童音樂學園
二、目　的　兒童に音樂教育を施す。
三、設立者　東京音樂學校同聲會
四、兒　童　小學校兒童を收容す。定員百二十名、三學級。本年度は尋常第四學年男女兒一學級四十名募集
五、修業年限　三ケ年
六、職　員　園長　東京音樂學校長　教員　東京音樂學校教官　委囑
七、校　舍　東京音樂學校（下谷區上野公園）（電話下谷六〇一一番）

三、入園資格

現に小學校に通學する第四學年以上の男女兒にして音樂的趣味を有するもの。

志願者定員を超過したる場合は、既習の簡易なる歌曲を歌はしめて選拔す。

選　拔　考　査　五月二十七日（土）午後一時
成　績　發　表　五月二十九日（月）
入園式及授業開始　六月三日（土）午後一時

四、教科課程

唱歌を主科目となし、本人の希望に依り器樂（ピアノ、ヴアイオリン又はセロの内一）を兼修せしむ。

唱　歌　基本練習、單音唱歌、輪唱歌、重音唱歌、音聲陶冶、鑑賞指導、卽興創作。

器　樂　基本練習、教則本、兒童曲集。

五、授業及學費

授　業　一週二回午後に於て之を行ふ。

水曜日　午後三時より五時まで。

但十一月より三月までは午後三時半より五時まで。

土曜日　午後一時半より三時まで。

此の日に器樂教授を行ふ

學　費　一ヶ月金貳圓（器樂兼修者は金五圓）

六、學園の機能と卒業後の指導

一、學園に於ける研究を發表し又は授業を公開して音樂教育の一般的指導機關とすること。

二、音樂演奏會研究教授等により兒童の成績を公表し、兒童の研究心及興味を助成すること。

三、東京音樂學校生徒の音樂教育に關する實地練習に提供すること。

四、在學中聲樂又は器樂の成績優秀なるものは、卒業後東京音樂學校選科に入學せしめて、其技能を伸ばし得るやう指導すること。

七、入園手續

入園志願者は入園願書に在學證明書（在學する小學校の）と通信簿（第三學年の成績を記載したるもの、入園決定後返付す）とを添へ、五月二十日迄に差出すこと。

入　園　願（用紙美濃紙、氏名には假名を付く）

本　籍　地　　族　籍　何某何男女弟妹

現　住　所　　氏　　名

生年月日

右者貴園に入園（　兼修）志望致させ度候に付御許可相成度別紙在學證明書相添へ此段御願候也

年　月　日

本　籍　地

現　住　所

族　籍　何某父母兄姉

職　業

右保護者　氏　　名㊞

生年月日

上野兒童音樂學園長　乘杉嘉壽殿

（『同聲會報』第一九三号　昭和八年四月　一一～一三頁）

藝術教育は幼時より

上野兒童音樂學園開く

已報の如く上野兒童音樂學園は募集發表後申込殺到、締切日迄に百六十有九名を算し、採用數を突破する事正に四倍强といふ盛況で、慥に時代の要求を反映してゐる。而も應募者中には、遠くは湘南逗子、鎌倉、横濱より、近くは市内殆ど各區に渡つてゐる事も何物かを物語つてゐる。愈々選拔考査は五月廿七日午後一時より本校に於て執行せられた。早きを爭ふ子供の事である。午前十一時頃已に姉さんにつれられて校庭に表はれたものもある。愛兒の聲援（と

いひたいが本校の唱歌受驗ではそれもなりかねる）の爲か、兩親打揃ふて自働車（ママ）でのりつけるものもあつて、忽ちにして控室にあてた講堂は滿員の盛況。定刻『今日は廿八年前、三笠の檣頭高く信號の掲げられた海軍記念日である。おちついて、安心して』といふ親切な注意と激勵の言葉が係員から發せられると、一同紅葉の様な可愛い手を打つて應酬するなごやかさ。かくて會員は二組に分れて六十四と六十五の教室に夫々唱歌の考査を受けるべく集まつた。試驗官は、二階は澤崎氏と最近伊太利より歸朝された城多氏、階下は岡野、淺野の兩氏で簡單な音階を視唱させられたが、さすが子供の事とて勇敢に歌ひのける。待ち合せの隣り同志はすぐ仲よしになつて無邪氣な囁きがはじまる。堪へかねて「先生御不淨へ」などといふものもある。講堂では愛兒の首尾や如何にと案じてをる父母の心も氣付かぬやう。唱歌が終ると、今度はピアノやヴァイオリンの教室に入つて夫々天分を發揮する。前者は貫名、川上きよ、山田菊江、山田みどりの四氏、後者は川上、岡見、岡田の三氏が立ち會はれた。此等の結果幸に合格した兒童氏名は左記の通りであるが、今回は特に設備の許す限り百十八名といふ多數が許可され入園式は六月三日擧行。〔兒童氏名省略〕

かくして幼時より藝術最高の殿堂に入つて育まれる中には必ずやこの中より樂界の麒麟兒が表はれるだろう。

（『同聲會報』第一九四号　昭和八年五月　二八頁）

同聲會設立兒童音樂團（ママ）開演式に於ける乘杉園長の訓示大要

附添父兄のために　　六月三日　於本校講堂

我國に於ける從來の教育は餘りに知識的に偏した憾があつたのでこの傾向に對して、感情的な方面を考慮して、藝術の人格に對する價値を强調し、特に音樂が國民教養の上に重大な役目を擔當してゐる事實に鑑み、教育方面卽ちその音樂教育運動については、つとに本校や本會乃至日本教育音樂協會が孜々として努力し來つてゐる。

人間はたゞ思考するだけの機械ではなくて血と肉とを盛つた感情的本體ある。換言すれば、我々の生活はこの血と肉とを土臺として盛られた感情的な部分が多くを占めてゐる。之に對して最もデリケートに且最も大きな影響を與へるものは勿論藝術でなければならない。故に藝術教育特に音樂に依る情操教育により我々の生活を高め、發展せしめ又享け樂しむと云ふことが必要である。就中兒童の情操はそれが直ちにその行爲を決定し、生活を支配し而して一切の高尙なる努力の源泉となるといふ事を考慮に入れて正しき音樂教育を施さねばならぬ。

ここに於て我々は上野兒童音樂園（ママ）を設立し、兒童に音樂の組織的教育をさづけ、その才能を助成し國民たる教養を藝術方面より向上せしめんとするもので、このことは小學校の基礎教育と矛盾しないのみか、寧ろ之と協調し之を助勢し、以て健全なる國民教育の基礎づけと爲すものである。

ことに音樂の如き藝術はその天分を有し之に趣味をもつ兒童に對しては可及的早期より教育せねばならぬし、又その學習の方法に於いては正しく組織的である事が肝要なことである。爰に於て時勢に最も適應して生れたのがこの樂園なのである。

設立者たる同聲會は東京音樂學校卒業者千六百餘を以て會員とする有力なる文化團體で、不肖余が會長として御奉公申上げてゐる。この同聲會が設立者ではあるが併し樂園の授業に使用する校舍、樂器等の使用に就いては、何れも本校のもの卽ち官用のものを使ってゐるので、これについては會長より學校長へ許可願を出し學校長は之を監督者たる文部大臣に願出て、その許可を得たものである。

今度の開園に關しては本會と一身同體たる音樂學校は言ふ迄もないが、文部當局の深き理解があつたといふ事は感謝しなければならぬ事である。

文部當局が近來は音樂教育に特に意を用ひられ、國民教養の重大要素たるべき音樂の振興に就いて不斷の援助を惜しまれないといふ事は、我々音樂教育に與るもののみならず、我國民教育上から同慶に堪えぬ事と云はねばならぬ。

扨この樂園の創立された事は我國教育行政史上一つのエポツクを作るもので、この設立の趣旨に共鳴されて愛兒を夫々本園に託された父兄諸君の御氣持について我々は滿腔の敬意を表するに吝なものではない、と同時に今日めでたく入園された兒童諸君に對しても勿論御歡び申上げざるを得ないのである。

入園を許可した兒童は百十八名であつた。實は最初は四十名を限度としたのであつたが、さて實際選拔考査に當つてみると四十名どころか百名以上になつて了つた。これは豫定超過で困つた事になって了つたとは言ふものの實際は甚だ嬉しかつたのである。何も好んで態々四十名迄に減少せしめる理由は毛頭ないし、第一事情の許す限り多くのものに音樂教育の機會を與えるといふことが本園設立の精神にも叶ふ譯なので、斷然百十八名を御預りした次第である。たゞ殘りの五十餘名の方々は折角ではあつたが全くその資格を缺いてゐた爲に乍遺憾御斷りせなければならなかつた。

選拔考査に關しては、發育盛りの兒童について嚴密な試驗をする事など不適當と思はれたので、大體に於て音樂的素質の有無音階及音程について考査して聽覺の良否を判斷し又音樂學習に當つて肉體上の缺陷の有無等についても吟味して、その許否を決定したのであつた。

斯樣に考査に當つては極めて寬大にして同情的な方針を採り、非音樂的でないものは出來るだけ之を許可したのであるから、今後學習の實際に當つてみた上で、到底見込みのないといふ者も或は發見されないとも限らない。そういふ場合には御斷りすることがないとも限らない故、どうか豫め御承知置願ひ度い。

入園出來たのだから我兒は天晴れ天才で、未來の大音樂家疑ひ無しなどゝ自惚れて頂いては甚だ迷惑である。或はまた、ここに入れたのだから音樂學校入學も大丈夫などゝいふ誤つた考へ方をして居られる父兄方があつたとしたらこれ又飛んでもない獨斷である。勿論天才を發見しそれがやがて大音樂家たることの實現を見る事は我々一同の希むところであるが、とにかく前述の如き詮衡に依つたのであるから、父兄方も今後の愛兒の成績については十分注意せられ、當方と協力してお互ひに立派なものに育て上げて行く樣にしたいと思ふ。

教科課程は唱歌を主科目として本人の希望によつてピアノ、ヴア

イオリン又はセロの内一つを兼修する事を許したが、この器樂兼修者は八十五名で殘りの三十三名は歌のみの方である。尙念を押して申上げておくが、器樂は飽くまで從で唱歌が主である事は御承知願ひ度い。

組の分け方は梅、桃、櫻の三とし、專門の唱歌の先生が一人宛各組を擔任し、本科及師範科三年の最高學年在學中の本校生徒が交互に教生として數人づゝ附いて萬事御世話する事になつて水、土の兩日午後から授業を行ふ。授業時間は四十五分として十五分の休みを與えてゐる事は小學校と同樣である。講師は本校の教授、助教授、講師及教務囑託の中より十五人に御依賴した。

かくの如く當方では兒童の音樂教育としての能ふ限りの陣立をして、時勢に適應した教育を實施してゆく意圖なのであるから、各御家庭に於かれても十二分の關心を持たれて愛兒の音樂的成長に留意され以て教育の効果を一層擧げる樣にして行き度いと思ふ。この結果教養高き立派な第二の國民が養成されてゆくであらう。

以上は入園式に於ける園長としての余の訓示であるが、園兒に附添つて來られた父兄諸氏を對象として特に御話したつもりであるから其點御諒知願ひ度い云々。（文責在記者）

上野兒童音樂學園規程　　設立者同聲會

第一條　本園ハ兒童ニ音樂ノ組織的教育ヲ施シ其才能ヲ助成スル所トス

第二條　教科目ハ唱歌ヲ主トシ志望ニ依リピアノ、ヴアイオリン、又ハセロノ内一科目ヲ兼修スルコトヲ得

第三條　入園ヲ許可スル兒童ハ現ニ小學校ニ通學スル尋常第四學年以上ノ男女兒ニシテ音樂趣味ヲ有スル者トス

第四條　入學期ハ學年ノ始トス

但シ缺員アル時ハ臨時入學ヲ許可スルコトアルベシ

第五條　修業年限ヲ三ケ年トシ修了考査ニ合格シタルモノニハ修了證書ヲ授與ス

第六條　教授時數ハ一科目ニツキ毎週三時間以内トシ毎週二回水曜日、土曜日ノ午後授業ヲナス

第七條　學年ヲ三學期ニ分ツ其授業ノ期間左ノ如シ

第一學期　四月一日ヨリ七月二十日ニ至ル（ママ）

第二學期　九月一日ヨリ十二月二十四日ニ至ル

第三學期　一月八日ヨリ三月二十五日ニ至ル

第八條　休業ノ日ハ左ノ如シ

春季休業　三月二十六日ヨリ四月三日ニ至ル（ママ）

夏季休業　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬季休業　十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル

祝祭日

第九條　授業料ハ左ノ區分ニヨリ徴收ス其期日ハ別ニ之ヲ定ム

區分	器樂兼修者
第一學期　八圓	貳拾圓
第二學期　八圓	貳拾圓
第三學期　六圓	拾五圓

既納ノ授業料ハ如何ナル場合ニモ返付セズ

但シ家庭ノ事情其他ニヨリ特ニ授業料ヲ免除スルコトア

ルベシ

第十條　左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除籍ス

一、無屆缺席二ケ月ヲ超ユル者

二、屢々遲刻缺席シ出席常ナラザル者

三、各前項ニ掲ゲタルモノ、外成業ノ見込ナキ者

四、所定ノ期限内ニ授業料ヲ納付セザル者

（『同聲會報』第一九五号　昭和八年六月　一～五頁）

上野男兒合唱團生る　設立者同聲會

設立の趣意

輓近我が國の音樂教育が、一般音樂の進歩と時代の要求とに相俟つて、其向上の機運に向ひつゝあるは、國民の情操上から眞に慶賀すべきことである。前きに東京音樂學校同聲會は、上野兒童音樂學園を創立して、幼時より組織的に音樂教育を施し、以て其天賦の音樂的才能を發揮せしめんとしたところ、忽にして志望者殺到し、已むを得ず、選拔考査をしなければならぬ盛況を呈した。こは素より時勢の要求の然らしめるところであるが、又一般家庭に於ては其必要を痛感された結果であると信ずる。

さて今回更に男子のソプラノ及びアルトを以つて合唱團を組織して、一層我國樂界の進展に寄與し、併せて兒童の音樂趣味の養成と音樂技能の練磨に資せんとする。この男兒童變聲期前の聲は、高さに於て女聲と同じくソプラノ又はアルトであるが、その聲質は全く女聲と異り純眞なる感を與ふるの美點を有する。

歐米に於ては既に中世紀よりこの聲を利用して盛んに合唱をなし、今日に於ては合唱界に缺くべからざるものとなつた。然るに我國に於て未だこの種の合唱の行はれないのを甚だ遺憾とし、茲に我國最初の組織立つたる上野男兒合唱團の編成を計畫した次第である。

幸ひに此趣旨を贊して熱烈なる援助を與へられんことを。

合唱團の組織

一、名　稱　上野兒童合唱團

二、目　的　男兒に合唱教育を行ふ

三、設立者　東京音樂學校同聲會

四、兒　童　尋常小學校男兒を收容す、定員百五十名三學級

但し尋常第三學年男兒より一學級五十名宛每年募集

五、年　限　三ケ年

六、指導者　東京音樂學校教官

七、校　舍　東京音樂學校又は分教場

入團資格

現に尋常小學校に通學する尋常第三學年の男兒にして音樂的趣味を有するもの

指導課程

第一學年及第二學年前半期は基本練習を主として行ひ、第二學年後半期及第三學年は合唱練習を主として行ふ。

授　業

一、基本練習は每週二回特定の學校に於て之を行ふ。

二、合唱練習は每週一回は東京音樂學校に於て東京音樂學校男生徒と共に行ひ、他の一回は特定の學校又は東京音樂學校分教場にて豫

備練習を行ふ。

授業料

不要

合唱團の機能

音樂演奏會により兒童の成績を發表して、兒童の研究心及興味を助成する。

音樂演奏會は東京音樂學校男生徒と共に合唱演奏をなす。合唱演奏會には出演の義務を有する。

入團手續

入團志望者は入團願書に在學證明書（在學する小學校の）と通信簿（第二學年の成績を記載したるもの入團決定後返付す）とを添へ六月三十日迄に差出すこと。

入團願（用紙美濃紙、氏名には假名を付く）

本籍地
現住所
族籍　何某何男女弟妹
氏名
生年月日

右者貴團に入團致させ度候に付御許可相成度別紙在學證明書相添へ此段御願候也

年　月　日

本籍地
現住所
族籍　何某父母兄姉
職業
右保護者　氏名
生年月日

上野男兒合唱團長　乘杉嘉壽殿

（『同聲會報』第一九五号　昭和八年六月　一九～二一頁）

上野男兒合唱團

本會の設立になるもの

本會に於て昨年度新設せる上野男兒合唱團は上野附近特定の學校に於てのみ右兒童を募集せしも本年は大方各位の希望もあり廣く東京市内各小學校第四學年より右兒童を募集いたし左記五十名が新たに入團、六月七日より本校六十五室に於て城多講師指導の下に練習を開始したがこの新入團兒は木、土の二日間小學校放課後に於て授業することとなつた。

昨年度募集の男兒合唱團は本郷區誠之小學校、同區昭和小學校、小石川區礫川小學校、同區女子師範附屬小學校等に置かれ合計九十四名の兒童があつたが六月より土曜日一回は本校に於て授業致すこととなり六月二日その第一回を薗田講師擔當の下に二十室に於て練習した。

來年度からはこの新舊兩男兒百五十名は愈々本校男生徒と大合唱を開始する筈である。

（『同聲會報』第二〇四号　昭和九年五月　一頁）

兒童樂園の父兄會

七月十四日本校に於て

本會設立の上野兒童音樂學園の第一學期授業は既報の通り七月十八日を以て終つたが之に先ち七月十四日午後零時半より本校に於て左の通り父兄會を開催した。

順　序

一、授業參觀　零時三十分より二時迄

二、唱歌會　午後二時十分より同三十分迄

一年梅、桃組合同

花火　新尋

牧場の朝　文尋

二年梅、桃、櫻組合同

いざ來よ（三部輪唱）　兒唱

鐘が鳴る（　同　）　同

朝の歌（齊　唱）　文尋

三、園長講話　午後二時三十分より

先づ各父兄は夫々子弟の授業を參觀したのち午後二時十分より奏樂堂に於て唱歌會を鑑賞した。二年は澤崎講師、一年は伊藤講師の指揮に依つて前記の數曲の齊唱と輪唱を行つたが何れも愛兒の進境の目覺しいのと正しい教授法に依る早教育の効果の大なるに驚嘆した樣であつた。

それから百七十餘名の父兄を前にして乘杉園長は極めてくだけた形に於て講話され父兄會は終りを告げたが、その內容として次の樣な事項が含まれてゐた。

乘杉園長講話の要項摘記

一、父兄方から授業の開始時間其他の時間割に於いて御希望があつたが種々の關係上今の處は現狀維持でゆく意向である。

一、兒童の制服を規定して欲しいといふ注文は、蓋し父兄同志に於て不知不識の間に子弟の服裝について競爭意識が生ずる傾向が見られるので一層のこと此際一樣に服裝を制定して了つては如何といふ御考へから來たものであらうと思はれる。誠に御尤な次第である。元來本園としては小學校の通學服を着用する事が原則になつてゐる。制服を作るとすればやがては演奏會用と平常用の二種を調製する必要に迫られる事にならうし又一方小學校の制服にも影響を及ぼして來るので、余は今の處樂園に制服を作るといふことは考へて居らぬ。清潔を旨として出來得るだけ質素なものを着用する事を建前として居るから父兄方に於かれても子弟の服裝については事實贅澤に流れざる樣御注意あり度い。

一、學園三年終了後は如何相成るやの質問であるが御家庭の事情の許す限り更に勉强を繼續さして頂き度い。一たん御引受した以上は當方では責任をもつて出來る限りの指導はする心組である。現在本校に選科の制度が設けられてあるがあれがそのまゝ適用される筈もないから特別選科といふ樣な科を新設して適當な教育を施す考である。勿論文部省の規程の許容する範圍で實施する譯であるが、いづれは御希望に沿ふ制度が設けられる筈であるから其點はご安心願ひ度い。

實を言ふと本校は官立であるために却つて自由が利かない場合がある。つまり豫算の上から折角の名案も通過しない事がある。例へば本校は高等師範科を併置して居る關係上附屬高等女學校や中學校の設置は緊要の事に屬するので五年前からこの問題で當局に迫つて居るがいつも經費の點で認可されないのである。當然存在すべき性質のものである事は當局も認めて居り乍ら豫算の上で未だに實現を見ないのである。

爲政者や有力者がもう少し音樂の重要性を認識して來なければ我國では音樂に關する十分な教育的施設は望まれない。

此現狀に鑑み本校は率先して音樂の普及發達に懸命な努力を拂つて居るのである。ついでであるから此際諸君の御後援を切望しておく。

一、次に教授上に關する御注意があつたが、余は園長として講師の採用については技能、人物兩方面に十分の意を拂つたつもりである。又同僚間に於ても常に激勵し合ひ教授方法に關しては絶えず眞摯な研究を積んでゐる。現に六月末には園の職員の教授研究會もありその席上余よりも一場の訓示を與へて兒童教育に對して萬遺漏なきを期して居る次第であるが、萬一に於て教授上思はしからざる事實があつたとしたならば甚だ遺憾なことである。今後十二分に注意して行くであらう。

一、兒童の音樂早教育は昨年より實施したものであるが實際に當つてみると却つて當方が幼い人達から教へられる場合が多々ある事を發見した。特に師範科併置の本校としては得る處が多い。打算的に言へば一擧兩得といふ處である。

又諸君も授業を參觀されたり只今の演奏をお聽きになつて痛感された事と思ふが、兒童の進境の目覺しいのには驚くの外ない。

本園に於ける斯くの如き教育が將來に於て我國文化の進展に如何に大きな動力を爲すかといふ事は言ふまでもない事であつて、選ばれたこの幼い人達がやがて一家一族の中心となり人の子の母となり父となつてやがは社會の中堅と成つて行くのである……と思ふとお互いに愉快なことではないか。

父兄方に於かれても此等の伸びゆく幼き人達の爲に、また我國の文化進展の爲に深き御理解の下に折角御協力を御願ひしたいと思ふ次第である。云々……　（文責在記者）

（『同聲會報』第二〇六号　昭和九年七・八月　八～一〇頁）

畏し

照宮內親王樣の台臨

光榮と歡喜に滿ち溢れた

兒童音樂園演奏會

教育界や樂壇の非常な期待と關心との裡に上野の森に產聲を上げた本會の兒童樂園も極めて順調な成長途上にあるが、この第一回成績發表のいぢらしい演奏會が十一月二十四日午後一時半から本校に於て、畏くも照宮成子內親王殿下台臨のもとに行はれ、午後四時感激のうちに紀念（ママ）すべき會を閉ぢた。

卽ちこの日殿下に於かせられては兒童音樂御奬勵の有難き思召を以て午後一時十五分宮城內吳竹寮を御出門、同二十五分二百餘の兒童と職員や本校職員生徒の奉迎に對し御會釋を賜ひつゝ海軍々樂隊

のマーチ奉奏裡に御着、御室に充てられた校長室に於て御小憩後、乘杉園長の御案内にて「君が代」の吹奏と一千の來聽者の最敬禮を受けさせられつゝ奏樂堂内中央の御席に御着き遊ばさるれば、開演のベル鳴り響きて可憐な一年兒童梅、桃組の高唱に先づ幕は切つて落された。

かくて別記プログラムは順を追ふて進められてパウゼに入り一旦御休憩室に入らせられたが、この間海軍々樂隊は庭前に於て吹奏樂を奉奏して御興を添へ奉つた。

やがて再び會場に入り給ひ曲目は後半に進み「憧れの夢」を最後として光榮に輝く演奏會はめでたく終る。御小憩後午後四時乘杉園長、文相代理赤間局長を初め關係全員と來聽者の御見送りを受けさせられつゝ御機嫌麗しく御歸館遊ばされた。

（『同聲會報』第二〇九号　昭和九年十一・十二月　六～七頁）

斯くの如く兒童音樂學園の入園志望者は遂年增加すると共に一方又その素質非常に向上する傾があるのは非常に喜ぶべき現象である。本年も例年の如く考査嚴選の結果前掲のやうに百〇六人の新入園兒童を得た。内男十三人、女九十三人で、斯く男子の少いのを見てもまだ音樂が眞の意味で我國民生活の心の深い所に浸潤してゐない事が解る。今その兼修樂器を見るとピアノ九一人、ヴァイオリン一四人、セロ一人で、セロは今學年度になつて始めて入園者を得た。又兒童の現住所を見ると東京市百人、横濱市三人、鎌倉一人、千葉一人、群馬一人である。鎌倉、逗子方面からの通學生は從來もあつたが、千葉、群馬在住者の應募は今年が始めてゞ、これで見ると徐々ではあるが本學園の存在が段々廣範圍に亘つて問題になつてゐる事が解る。學園も三年目の春を迎へ制定されてゐる三學年全部揃つたので講師も十四名新たに囑託され合計四十四名になり、生徒も全學年總計で三百二十四名に達した。

（『同聲會報』第二一二号　昭和十年三月　四四頁）

樂園記事

教生に對する謝恩會

本校本年度卒業生本科三十名師範科三十名は豫てより上野兒童音樂學園教生として一年間その養護訓練竝に教授を擔當してゐたが今回卒業に當り去る三月十一日午後三時より本校奏樂堂に於て左記の通りその謝恩會を開催した。

一、活動寫眞映寫　文部省推薦映畫少年探偵團
一、乘杉園長挨拶
一、學園兒總代原定繼君謝恩の辭
一、教生總代小橋潔君答辭
一、記念品　教生一同へ日本教育音樂協會編本邦音樂教育史一卷宛贈呈

（『同聲會報』第二一二号　昭和十年三月　四一頁）

上野兒童音樂學園の私のピアノ教室の横斷面

本校囑託　宮内鎭代子

我邦の音樂界は數年來著しく進歩した。一年間を通じての演奏會の數、演奏曲目の多樣、樂壇に活動する人々の量より見ても、四五

年前よりは遙かな進歩で、事實その中には質から見ても相當の好成績を擧げるものもあり、又至難の曲の演奏にまでの努力は眞に敬服に堪えないものも少くない樣に思へる。それにもまして嬉しい事は音樂の一般化である。それは、近代生活に最大の光を與へたラヂオを通して家庭生活に侵入して來た。居ながらにして、ハルモニーに耳を傾け、リズムに心を躍らせ、メロデイーを共に口ずさむ。家庭にあつて、ラヂオを通しての音樂鑑賞はまことに自由である。一晩をさいて會場まで出て行く時間が省ける、よそ行きの氣持でしかつめらしい分つた顏をして聽く必要もないので、至つて氣樂に樂しめるのである。かうして、昔一種異樣な近づきにくい樣な氣のした西洋音樂は、もう完全に我々のものになつてしまつた。今日を呼吸する人でオルケストラの響を異樣に感じたり、ピアノの音に驚いたりする人はもう居ないであらう。幼年時代ピアノの音を窓ごしにきいて天來の妙音かと耳を欹てた私、十年前東京音樂學校で第九ジムフオニーの本邦初演をきいて、魂も溶ける程感激した私に、今日の樣にマーラーのジムフォニー、シュトラウスの大合唱、幾多のピアノ協奏曲、ヴァイオリン協奏曲と矢繼早やにきかせたら——全く狂氣せんばかりの歡喜である。回想すれば、朝霧の中に樂しく橫たはるこよなき幼年時代にも私共のうけた音樂教育は極く簡單なものだつた。又音樂的刺戟も哀れな位貧弱なものだつた。今潑溂とした潮流に棹さして、といふよりは寧ろ落ちた木の葉にも似た自分のか弱い姿をながめて、次の代に來る人々は、——これから生きる人達の音樂はと考へさせられるのは、獨り斯道に志すもののみではない、一般近代社會人の聲であらう。

上野兒童音樂學園はこの時に當つて昭和八年六月、音樂の一般的早教育の目的で開設された。當時は尋常四年生の男女兒童約百名を入園許可し、主科として唱歌を課し、本人の希望により器樂（ピアノ、ヴァイオリン又はセロの內一）の兼修をゆるしたのであつたが、一學期を經て、器樂を兼修するものが總じて唱歌の成績も良好であるといふ唱歌科の要求から、器樂も一般に課せられ翌九年度からは「履修科目は、唱歌と器樂とし」と規則も改正されたのである。元來この仕事は初から其の趣意は一であつたが實行上の方法問題については研究しつつ改善を加へて行くといふ園長の御旨意に基き、講師諸先生の熱心と經驗によつて事實上、漸次改善に改善を加へ、教育機關としての秩序も追々整ひ、現在では第三年目を迎へて、各學年の兒童を收容し、茲に始めて、學園が全機能を發揮せしめる可能性をもつたのである。

學窓を出て間もない私が、全くの無經驗でこの眞に意義深い仕事に携ることはこよなき光榮ではあるが、一面には又非常に大膽なことである。併し、若年の計畫は大きい、理想は高い。そして、自分として、まだ〳〵前途宏大な希望で、どこまで發展させることが出來るか見透しのつかない仕事を今喋々することは本意ではないが、讀者の方々は多年經驗を積まれた音樂教育家で居られることから、いさゝか、ピアノ教室で感じたことを書いて、先輩諸賢の御指導を希へれば幸甚と思ふのである。

× × ×

「少年の不可能な計畫、無邪氣な質問、素手の駁論、喆戰的の矛盾、早鐘の樣に敲つ心臟——彼等は土を掘返してその中へ新しい種

子を蒔くのである。少年に先達つて行く人は新しい種子を無意識に受取つて成熟の力を以て、溢れる程の植物を發生させる土壤として感ずべきである。」とブゾーニは謂つてゐる。げに味はふべき句である。兒童は心から喜んで登校する。小學校の授業を了つて、友達はもう遊んでゐるのに、それから二時間習ふのであるが些かも疲れる樣子もない。しかし、そこには大人ほど、誇りもなければ、義務も野心もない。「ピアノを習つてどうする?」と尋ねたら恐らく當惑して、あの大きな瞳をきょろ〳〵させるに違ひない。彼等は目的に支配されたりして習ふのではなしに、只ピアノを彈く事自體が生活の一部になりきつてゐる樣に見える——恰度、人間が歩くことについて何等考へないし、何時習つたかも忘れてゐる樣に。これは大人から見て、うらやましき限りである。往々私共は、成長してからピアノを習ひはじめる人が、ピアノの前に坐る時、明かに自分を意識してピアノに對して居るといふ感じをうけることがある。終始自己がピアノといふ他物に對して働きかけてゐるのである。よく彈きたいと始めから意識して、キーを出來るだけ我が意に靡かせようと焦る。思ふ樣にならなければといふ恐怖心がいつもつきまとつて、益〻自分を卑屈にするのである。兒童達は之に比べて、總てがごく無意識である。第一、自分の彈くことに、さう期待もかけて居ないし、ピアノに對して、さう暴君でもない。運動場で遊ぶことと些か變らないのである。恰も彼等は世の中へ出て來た時から、ピアノを彈く事に約束されてゐる樣に見える。これは全く早教育の賜で殊にピアノ演奏の樣に或る筋肉に獨特の運動形式を習得させて、自動的無意識的の運動系統を作らうといふものには早教育は大いに意義深いのである。併し、勿論希望は大きい。空想といへる位、前途は洋々として樂天的である。彼等は素晴らしい名演奏を聽いた時はいつも歡喜である——自分もいまに、あの樣に彈きたいといふ歡喜であり、又將來いつかあの樣に彈けるといふ安心した前途を信じて居る樣である。かくて兒童はいつも新綠の如く明るく、伸び〳〵として居る。殘念ながらこれは不可能な計畫に終らないとも限らないし、美しい夢であるかも知れない。が私は、愛すべき兒童達の夢長かれと祈るのである。萬事は、時と自然が敎へてくれるであらう。今大人が踏み入つて、心もなく警鐘を亂打して、彼等の樂園に無意味な不可解な風波をまきおこす必要は毫もないと思ふ。子供には子供の領分がある。私達は飽くまでその領分に立入ることなくして保護してやらねばならぬと思ふ。そして一旦、不幸にして彼等が彼等の領分で解決し得ぬ難解に遭遇した時こそ、一歩先を歩むものとして、親切な道しるべとなり、衷心より、よき相談相手となるべきではないかと思ふ。

まことに彼等は種類の異つた種子である。併し何といふ植物の種子かは分らない。土に下ろして栽培すれば、必ずや發芽して花が咲くのである。どんな形の花が咲くかは分らない。まして、どんな色でどんな芳香を放つか豫測出來よう筈もない。しかし花が咲くことは確實で、花が咲くまでの栽培法——日光を多く好むもの好まぬもの、水を多く要するもの要しないもの、特別の肥料を要するもの等——は個々である。開花までの日數もちがふし、開花期間も長短もあるし、人が何れをより鑑賞するかに至つては、その時までまつて見なければ言へないのである。しかし、何れも天意にかなつた花に

咲くといふ點では同等のもので、上下の差はないのである。もし、ピアノに個人教授といふことが言はれるなら、私はこの點について必要であらうと思ふ。入園式の時、又は父兄會の時、兒童の親御達は大層心配されて訴へられることは、「私の子は人の前で、はき〳〵物を言へませんので……」とか「だまつてゐますので、」とか「動作がのろいので」とかいふことである。見知らぬ人に大事な我子をあづけるのに當つての親心の有難さには目頭が熱くなつた。ピアノの演奏は立派な發表方法であるから別に言語で註釋を施す必要はないし、一旦、彈き出せばテムポは定められてゐるから動作の特に敏捷を要することもないし、そんな懸念は演奏の熟達には不要であらう。他の意味から言へばそれは教師の常に注意せねばならぬことである。常に自分の對する兒童の個々の性格をよく知り、教師はそれに順應して行かねばならぬ。要は如何にしたらよりよく彈けるか、より音樂的に行くかといふ點に置いて、他の從的條件については最も寛容な態度で扱はなくてはならないと思ふ。

それではピアノの授業は個人的にのみ行はれるかといふに決してそれは理想的ではないと思ふ。勿論一人づつ彈いて、授業が進行するので唱歌の様に一緒に歌ふことがないから個人教授であると簡單に言つて了へば、一見尤もの様に受取られ易いが、これでは往々個人教授の意味が取ちがへられるおそれがある。進歩の著るしいもの、他人より努力して早く一曲がまとまるといふ人は、勿論劣つた人に歩調を合はす爲、足踏をしつゝ待つ、といふことは全然必要ではない。又個性を重要視する事も必要であるが、それ以上に一般的な事項の方が教授上には多いのである。一般的に、誰もが爲さねばならぬことがある、又一般的に誰もが避けねばならぬことがある。長い經驗によつて最も妥當とされてゐる指遣ひもある。これ等は、一人一人別々に教へねば分らないことではない。一言すれば、生徒は十人でも百人でも同時に理解し得ることである。この點では出來得る限りの時間的經濟を計り、最も効果的に能率を高めたいと思ふのである。ピアノの授業に於ても、教師の方から説明し、註釋をして生徒が理解するといふ場合は小學校の國語數學その他あらゆる學課と同様に一般教授である。しかし、音樂は理解したばかりでは不十分で實行せねばならぬ、再現せねばならぬ。この時に當つては、十人十色の性格の異ると共に生理的身體構造も違ふし、人々の感應の度も個々であるから、始めて個人教授の必要が生れるのである。

以上の様な考から私は私共の教室に於てに第一、すべてが兒童の領分でなければならないと思ふ。至つて自然に、自由に、明るく、伸び〳〵と、希望をもつて、樂天的に健全に發達して行かなければならないと思ふ。教師はいつもその發育をさまたげぬ様、又、無意識にでも、立ち塞がつて、彼等の光明に輝いた道に影を投げぬ様に注意しなければならぬ。彼等にとつて悲觀と絶望とは大敵である。出來ることなら、どんな難解も微笑の間に解決し、どんな大失敗さへも、笑の中に改めるといふ位の餘裕をもつて欲しいと思ふ。どんなこともやさしい事と感じて、樂しみつつ、修業するが、その根底には必ずや、理想の境地があると確信し、そこへ突進してやまぬ不屈表撓の向上心と勇氣をもつ様にと希ふ。

又、私は兒童に對しては極めて、紳士的に個々の人格を尊重して行きたいと思ふ。子供は半人前視されるのを嫌ふ様である。これは

我々大人から考へても、或方面では大人より遙かに勝れた點をもつて力一杯活動して居るものを、頭から、「子供」と輕々しく呼ばれて一人前扱ひをされないといふことはどんなにいま〳〵しいことかと同情されるのである。私は兒童に對する時は、知らず〳〵正直な飾りの氣のない自分になつて了ふ。そして、この前途を祝福された人達に常に心から敬意をはらつてゐる。そしてその結果は、兒童を謙讓にしたと思つて居る。併し、その代り、子供だからとて、妙に甘やかしたり、必要以上に世話をやいたりする弱者扱ひも、絶對にしない事にしてゐる。十歳を越してゐるのであるから、自治といふことも出來るし、ピアノに向つて一曲を彈くといふ事には既に大いな自治が必要である。眞の向上は、自發的の勉强、反省的の改善でなければならぬと思ふ。

すべて幼き時の習得は生涯最も力强いものである。往々第二の天性を形づくる。幼い折から、よき趣味を得て精進するこの兒童等が朝夕音樂にいそしんで成長した曉、それは必ず、いつも變らぬ友となるであらう。嬉しい時、樂しい時は言ふに及ばず、それは、悲しさのどん底に沈んだ時でも大きな慰安となるにちがひない。かくして第二の宗教にまでなつて、我身を照らしてくれるものを、幼い人々が握つてゐると思へば、實に嬉しいことである。

× × ×

次に、指導上の實際について書いて見よう。これは決して教授法などと呼ばれる組織立つたものではなくて、只自分が今までうけたピアノの教授、又は他の授業などからの感じを總合して、最も自分を感化してくれたと思ふ事、最も自分を刺戟して發奮させてくれたと思ふ事、又、自分が教授者となつた時は、あんな態度でありたいと思つた事等を寄集めた至つて平凡な概念を基として、その時間に最も適した行方で授業を運ぶにすぎない事である。又ピアノ教室では、他の教室での樣に教師が受動的な生徒と對立して教へるのではなしに、指導者も生徒も能動的に同方向に向つて研究して行くのである。

趣意書にもある通り、こゝは所謂天才少女ピアニストを養生（ママ）するところではない、ピアノを通して、音樂の本來の姿を眺め、正しい概念を得、音樂的な人間になることに役立つのである。決して演奏術を覺えて、器用に指を動かすなどといふ輕業的偏見であつてはならないと思ふ。

授業は水、土の二回で四人一組五十分のもの二組である。現在一組は三年生（尋六のみ）四人で二組は三年生三人（尋六、二人、女學校一年一人）二年生（尋五）一人であるが、昭和八年入學當時は二組の方も全部尋四の兒童であつた。組別は只いろは順によつたのであつて、一組には、二人の同程度の既習者、共にバイエルの百四番まで習つて來たものと他の二人は入門者であつた。二組は三人が入門で一人だけ矢張りバイエル百番の程度であつた。既習者といつても家で習つたり、又先生についてゐても常に子供として遊び半分に習つたらしいものであつたけれど、私はバイエルの本を後もどりはさせなかつた。後もどりは餘りよい感じのするものではないし、前に教へられた事と、今度云はれる事が違つた場合に幾分なりとも精神的疑惑をひき起し易いと思つたからである。同程度又はもつとやさしい程度のものでも、他の曲を材料として行つた方が先生のか

はつた場合は効果的である。入門者には殊に讀譜を完全にする樣に樂典を組織的に說明する樣に留意し、そして、既習者は、それを傍聽して既習のバイエルを復習し確實な基礎をつくりつゝ、先を續けて行き、又入門者も進んだものを聞くことによつて得ることもあるのである。而も、同程度のものは出來るだけまとめて扱つて、行つた方が時間の經濟であり、實際彈く時間は僅か十二、三分であつても、他の人がひく時も、そこから智識を得ることは長い間には非常な能率の增進にならうと考へたからである。これは既習者入門者半々の一組には可成り役立つた。又二組に於ても、三人の入門者には明らかに時間以上の効果を上げたが殘る一人は、理解力もあり、素質もあつても、競爭がない。自分と常に業を磨き合ふよい意味での競爭者の無い事は倦怠を起す結果に陷り、又事實さうなので少なからず腐心した。それで二學期の中頃一組の一人が退園した時に、この兒童を一組に編入したところ、こゝには前述の自分と同程度か、より進んでゐるかと思はれる既習者が二人も居て、二人ともに互に勉强し合つてゐる樣子を見ては、ぢつとしてゐられない。大いに發奮し、興味を覺えたらしく、それ以來この兒童は目立つて進步したのであつた。學習上よき友はすべての意味で必要である。二組の方へは、補缺に尋五の兒童が編入されたそして翌年二年へ進級する時、又一人退園した補缺に、今度は未習の尋四の兒童が一年生として編入されたので、尋四、五、六と三通りの兒童となり、入園の時期もまち〳〵であるから、全くの複式狀態におかれて、已むを得ず個人的授業になる場合が多い。尤も、熱心な勉强家にとつては何れでも同じであるかも知れないが、組全體を一つの空氣にして進めて行くといふ點は困難である勿論、何れの組から優秀な人を出すか、いづれの方法が合理的であるかは全く未知で豫言出來ない。

入園後、第一時間目に私は私共のピアノ教室での約束をした。第一、「教室には入る前手を洗ふ事、ハンカチを携持する事」で「清潔な手で彈けば綺麗な音が出るから」といふ氣分の問題と、一方これから授業であるといふ精神の統一集中を目的としてである。

次に時間中にあつては、「分らない事は遠慮なく質問して下さい。私の知つてゐる事は何でもお答へしますし分らない事は調べてお答へするし、それでも分らない事は、えらい先生にお尋ねして、出來るだけお答へしますから。そして說明の不充分や、聞き漏らし等で納得の行かぬ處は何回でもきゝ返へして下さい。しかし、一旦、分りましたとなつた事はどうぞ忘れないでいたゞきたい。いくら塔を高く〳〵と築いても基礎工事の不確實なものはいつまでも、高くなる事は出來ないから」、と約束し、今猶、そのモットーで續けて居る。

學習法については、「少しづつでよいから每日さらふ事、常に健康をそこなはぬ程度にとゞめねばならぬ事。」で、殊にピアノの爲に、小學校の成績を落したり、學業を怠つたりしてはいけない、國民義務教育は日本人としての資格をつくることで、之をないがしろにして藝道をなどといふ本末顚倒の矛盾は赦せない事であると云つてゐる。であるから時には、遠足で休む者も居るし、學校のことの爲練習不足であつたと訴へるものもあるが、私は出來るだけすればそれでよいと、全然それを憎まない。又不慮のことで健康をそこねたり、怪我をしたりして、休んだり出席しても彈けなかつたりする

事があつても私は責めない。兒童はそんな場合は、氣の毒に思へる位ひけ目を感じて「かう〳〵で」と言譯をする。例へば「今日は何々の理由でよく練習が出來て居ません」といふ時「よろしい。出來ただけでよいからお彈きなさい」とか「では一諸に練習しませう」とか答へるとほつと安心した様子で以後は大分自重する様である。

上手に彈けない時でも自分で「これはまづい。」と思ふらしい時はもうこちらから二重に忠言はしない。すべて自ら痛感して勉强するのが、その人を最も進歩させる事であらう。藝術の研究は結局他から植ゑつけられるものではない、自己の心眼を開かねばならぬことである。

そして一のことが理解し、實行出來れば、その上のことその上のことと研究を高めて行く。例へば一曲を彈くにも、先づ譜を正しく讀んで、むづかしい所を練習し、一曲まとめて、通して彈ければ、之を暗記して自分の音樂的財產とし、更に進んで、曲の性格を彈き、最後にはその曲を通して自分の考なり感謝なりを他の人に訴へるといふ段階にまで進めて行かねばならぬ時、まだ事の途中にあり乍ら滿足げな顏をして安心するものには、とつくりと警告するのである。すぐ分ればそれでよい。分らぬときこそ、あらゆる自分の腦髓を絞つて世俗のことに類例をとつて懇切に說く。その中に、ほんの一點、何か彼等に「あゝ、さうか。」と思ひ當ることがあれば、全く明星の如きもので、彼等の研究の餘地はこゝから拓けて行く事になるのである。

樂曲は、エチュードでも曲でもすべて自習で讀譜させる。樂典は唱歌科で餘程系統立つて教へられてゐるらしく、殊に拍節、リズムの點では、どの兒童も常に誤りなく彈いて來るので、唱歌科に負ふ處大である。

往々、ピアニストの重大問題である演奏法といふことについては只、常に自然にといふだけである。自然が最も無難で美しい。體も腕も自然な樂な狀態で指も、曲げてとか、伸してとか、こちらから指定はしない。自分は習ひ初めから今日に至るまで、先生のかはる度に演奏法を直させられた。或る時は指を曲げて、靜止した腕で畫に描いた様に美しい恰好で演奏すべしとされた。又或る時は手首を高くして振り落す様なタッチを習ひ、又は全然反對に低くしてと云はれた事もあつた。その他スタッカートの奏法、レガートの奏法、何々の奏法奏法と銘うつて先生の變る度毎いつも、彈き方を直されて新しい先生の方法に馴れるまでには一學期を要し、而もいつも、成程と思はれる事を教へられたのである。又、最近になつて、巨匠の演奏法の著書を二、三瞥見しても、實に多種多様でどれを是、どれを否といへぬのである。勿論長い年月の間には樂器そのものも變遷して來てゐるし、近代では殊に、生理學的、物理學的見地から演奏法を扱ふ様になつて來て、正しく進歩はして來て居ようが、私にはこれは將來猶研究さるべき一大問題として無限の境地を見せてゐる。もう十年もたつたら、あらゆる人は今と全然變つた方法でよりたやすく、美しい音でパツサーヂを奏でるかも知れない。これは絕えずピアニストやピアノ研究者を刺戟する問題で、又絕えず研究され改善されねばならぬことであらう。故に、私は私の淺學と狹量で奏法を限定する事やうけ賣りする事は愼んでゐる。兒童は三年修了

すれば、學園を出て、更に高い音樂教育をうけるであらう。その中には專門家を志し、又は趣味の完成を期して、ピアノを專攻するものもあらう。その時すぐれた指導者が眞によい奏法を彼等に教へてくれたら、私の喜びは大きい。そしてその時で遲くはないと思ふ。只いかなる奏法を要求されても、それに順應し得る能力を幼い中に發芽させておく事のみが肝要と信じるのである。

指遣ひについては別の考をもつてゐる。勿論箇々の人によつて異るものであるし、特殊の効果を狙ふ上から時と場合によつて選ばねばならぬが、昔から傳つた指遣ひで既に立派なもの、キーの竝び方でも變らぬ以上、不變であると考へられるものがある。例へばC・durを除くあらゆるDurの音階の指遣ひは、私には一つしか存在し得ない氣がする。自分の經驗でもこれは二通りに學んだことは嘗てない、又將來なささうに思へる。かゝるものは、私は遠慮なく斷言する。そして一日も早く、彼等の所有物となる樣に反復させる。さうすれば曲の中で、音階の部分は、すぐ何調かと見ていつも馴れた指遣ひによれば特別練習の必要はない。音階によらず各曲でも、或指遣ひによつては極く樂に彈けるが他の指遣ひでは彈けないものもあるから讀譜の時から注意して成るべく各人に適した指遣ひを考へて、定めて、その指で彈かせる樣にしてゐる。

暗譜について――一曲がまとまつてひけたのちは、私は必ず暗譜をさせる。暗譜は樂曲の發展や、ハルモニーを自分のものにする事が出來る。樂譜の媒介なしに眞に自分の音を聽きつゝ演奏する事は、音樂へ一歩踏み入ることである。その他「暗譜演奏について」と題して、ブゾーニの論說に云はれてゐることに私は皆同感である。（ピアノ研究者の必要のものといふ感銘から、いつか雜誌「音樂」に釋したことがあつたが。）

教材は矢張り自分の辿つたバイエル、チエルニー三十、四十を順次的に進めて行き、之にソナテイネ又は小曲、進んで來てはソナタを併び用ひてゐる。教材のことについても、深く研究すればなかなか興味ある問題であらうが、この昔から多くの人に使はれた經驗は割合に系統的な、よい材料であるから、今の處それによつてゐる。バイエルは音の高低、長短、リズム、音型等極て一般常識的な雛型が擧げられてゐるに過ぎぬ。これを全册終るのに入門者は、早くて二學期遲くて一年かゝつてゐる。尤も、その間には應用の意味で、ケーラー等の十六小節から四五十小節の小曲を十や二十はするのであるが。次にチエルニーになつて始めて、テクニツクの練習を要する。例へば三連符を一頁、二頁揃へて彈いて行き、その間に强弱をつけて行くのである。こゝで、ソナテイネを五、六曲彈いて居る中にだんだんと、長いものをまとめて行く事に馴れて、ソナテイネアルバム中のソナタ等ひけて、三十番が上るまでには二年を要しよう。殊に最後の年には中等學校の入學準備に少しの能率減退も豫想されないではない。バイエルを殆んど上げて來た人達は三年目の今日、四十番に入り、曲もモツアルトや、ハイドンの曲らしいソナタを彈く樣になつた。譜のことや、拍子等は注意されなくて濟む樣になり、獨りでどうやら、まとまつたものが彈けるので、はたから見てゐても、大分愉快である。この他に、兒童の爲の二つの異つた方面のよい手びきとして、私はバッハの二聲のインヴェンティオンと、シューマンのユーゲンドアルバムを擧げる。前者は、少しむづ

かしいが、嚴格な對位法的樂曲への足場として一曲でも二曲でも急がずに築くべきで、各〻が小曲であることは誠に入り易い。後者は和聲的の種々の性格のリード形式の小曲集で浪漫派の小曲へ發展すべきスタートとならう。その他、一學期に一度づゝやさしい短いものであるが一週間位の餘裕で全體の兒童に同一の曲を同時に出して、互いに彈いて批評し合つたりする樣な事をするが興味ある事である。

最終にオルケストラとの提携は、ピアノの授業へ新機軸を與へてくれた。全兒童は去る二月十六日、日比谷公會堂のステーヂでマーラーのジムフォニーのクナーベンコーアに出演したがこの一事は確かに兒童達に得がたい體驗となつたと私は信じる。あれ以來、彼等は又ピアノもオルケストラに感じる事が出來る樣になつた。そして實際下手な說明をくど〳〵とするよりは、こゝは、「ヴァイオリンのピチカートの樣に」とか、「フルートの樣に」とか「コーラスの樣に」とか言つた方が當時の記憶を辿つて音色まで工夫する樣である。げに一回の演奏は百聞に勝るのであらう。

餘談ではあるが、私はマーラーの練習を四日程前に聽いた時、クナーベンコーアのメンバーが了へてフィナーレを待つ間の無邪氣ではあるが大變に動くことが氣になつたので、ピアノの授業の後、八人の人達に注意を促した事があつた。「ステーヂの上では、あなた方は單に兒童ではなくて、ジムフォニーを創り出す大事な一つの樂器の樣なもので、いはゞピアノのキーです。一つのキーでも鳴らなかつたり、一つ別な調和しない音色だつたりしたら、曲全體がこはれてしまひます。私達聽衆がステーヂ全體を一つの大きなピアノの樣に感じて皆の心がステーヂに集つてゐる時、演奏者が勝手な話をしたり、後を向いたり、果は自分達の打鳴らすティムパニーに耳を塞いだりする事があつたとしたら、をかしいぢやありませんか。」と尋ねた。八人とも尤もとうなづいて、よく分つたらしかつた。

十六日は三十分にも餘る演奏の間、二百餘の全兒童が直立のまゝ、身動きだにしない。一人の落伍者をも出さずに、實に涙の出るほどの出來榮えであつた。私は聽衆の一人として感激に滿ちて、最後まで拍手を贈つた。クナーベンコーアは當夜、最上の出來として各方面で贊へられた。

次の授業の日、私は、又、この尊敬すべき八人の人々に私の心からの嘆願をした。「クナーベンコーアが三千の大衆を感動させた事は學園の全兒童が、一人殘らず喜んで一緒に歌つたからです。個々の人がどんなことを考へ出しても三千人に對しては無力であり、又いくら大勢が集つても、その中の一人でも、いや〳〵歌つた人があつたら、あの結果は得られますまい。團結して事に當ることは何者をも征服します。殊に音樂家は團結の精神に乏しいと云はれる今日、學園に學んだあなたがたは、將來いつまでも、あの日比谷の晩を忘れずに、何かの時は必ず團結する樣に」と、私は寧ろ興奮して話してゐたが、兒童達はけげんな顏で一向に見當がつかない樣であつた。成程かゝることを考へる必要のあるのは大人で、彼等には何事も自然な出來事なのであらう。しかし、私自身、今考へると、生徒時代の一番なつかしい思出はコーラスである。土曜演奏會の初ステーヂよりも何よりも、活々と蘇つてくるのはコーラスで、もうそれは、再び經驗することは出來なくなつた。學園の兒童等も、今こ

そ無感覺の樣に見えるが必ずそれは在園中の大きな思出として彼等の生涯を飾るに充分であらう。

× × ×

兎に角兒童は敬虔で、正直で、從順で、よく私共の勸告を受け入れてくれる度量を持つてゐる。又兒童の家庭の人々は非常に熱心で至難の道に精進する我が子をよく愛撫してくれる。兒童音樂學園が我國最初の試みであるだけに、世間の眼も集つてゐる。兒童は次の時代を負ふ人といふ自負心に燃えてよく勉學にいそしんで行く。彼等を一層、奮闘努力させる事は畏き邊りにても、彼等の修業を御奬勵遊ばされるといふことである。開園後、滿二年の淺きにもかゝはらず、機會ある毎に兒童はその演奏を聞え上げることが出來るのである。これは豈兒童の光榮のみならず、私共、その仕事にたづさはるもの全員が常に恐懼して居るところである。

かくして、惠まれた兒童等の健全な發育と上野兒童音樂學園の時代の要求に適した、意義ある發展を希つてやまない。そして、この兒童達の中から、やがて、眞の藝術的のピアニストを輩出し、他のものもすべて、理解ある正しき聽衆となつたら十年先、二十年先の音樂界のレベルは一段と高くなることであらう。そして、それはその先來るべき時代へと絶えず波及して行くと思へば、私の心は嬉しい。

（『同聲會報』第二一五号　昭和十年六月　一三～二五頁）

兒童樂園の父兄會――七月十三日本校に於て――

上野兒童音樂學園の第一學期授業終了に先ち七月十三日午後零時半より本校に於て左の通り父兄會を催した

順　序

一、授業參觀

第一時限　十二時三十分――一時　十　分

第二時限　一時十五分――一時五十五分

二、園長講話　二時より

三、唱歌會　二時三十分――三時

イ、一年生唱歌　山の秋（新尋常小學唱歌第四學年）
花火（同）

ロ、二年生及合唱科唱歌　海（新訂尋常小學唱歌第五學年）
朝の歌（同）

ハ、三年生唱歌　二部合唱　夏のひかり　ホーソン曲二宮龍雄詞
二部合唱　花　瀧廉太郎曲武島又次郎詞

父兄は非常な熱心と期待を以て平常の授業を眼前に參觀して統整（ママ）のとれた見事な授業に大滿悅であつた。つゞいて懷しい乘杉園長の講話があり兒童の將來進むべき道を明らかにせられ、父兄も安堵し且感謝した。

午後二時半より愈待望の唱歌會が上記のプログラムにより行はれ、一年は木下講師二年は伊藤講師三年は城多講師の懇切な指揮によつて卓拔の好成績を示し兒童の進境に目覺しきものあり、我國音樂早教育の輝かしい未來は約束された。

乘杉園長講話の要項摘記

學園も剩す所二學期で第一回の修了生を出す事になる。然らば三年終了後の兒童は如何相成るやに就いて希望と計畫を述べてみた

い。本學園は曩に兒童の音樂早教育の必要を痛感して設立され、爾來鋭意特殊な音樂教育を施し、昨今やうやく効果の大いに見るべきものがある。

然るに小學校五、六年を終へて中等學校に入學すると共に、本學園の音樂早教育が中絶の形になつては、切角の抱負も期待も理想も水泡に歸して了ふ。

そこで余は將來兒童學園を官立とし東京音樂學校の一部としたい。卽別科の名稱の下に洋樂部と邦樂部を設置し、洋樂部は更に第一部（年限三個年）及第二部（年限四個年）に分ける。右第一部は小學校四、五、六年に相當し、第二部は中等學校に相當するのである。而して兩者共、小學校及中等學校在學を條件とする。

この計畫が達成の曉は來年三月本園終了の兒童は引續いて第二部の第一學年に入れたいと思ふ。卽ち官報で募集するから來年終了の方はそれに應募すればよい。

他から來るものと一緒に試驗を受けその中から優秀なものをとるのである。收容人員は先づ四十名（定員）である。不幸にして不合格の方は本校の選科で御勉强なさると云ふ方法もある。

次に本學園の二年以下の方は從前通り兒童學園として三年間存續する。しかし來年度からは兒童學園は募集しないでその代り別科の第一部を六十名（定員）募集するのである。

若し豫算が成立せぬ時は更に兒童學園に於て高等部を設け人員は約半數五十名をお引受しよう。それ以上は學校が一杯で全部お入れ出來ないのは甚だ遺憾であるが、これが現在收容し得る最大限度である云々。（文責在記者）

（『同聲會報』二一七号　昭和十年九月　四四～四五頁）

兒童音樂學園

上野男兒合唱團は、その指導者澤崎教授が歐米音樂行脚に出られるのを機として本學園二年に編入する事になり、七月一日希望者二七名を二組に分けて二年梅組一及二組に編入した。それ等の兒童は從來合唱團に所屬してゐた時と同じく唱歌授業のみで器樂は受講してゐないが、器樂の授業を受けてゐる學園の兒童に比し、あらゆる點に於て幾分見劣りのする所を以て見れば、兒童の音樂早期教育に際し器樂が重大な役目を果してゐる事がよく解る。

（『同聲會報』第二一七号　昭和十年九月　四九～五〇頁）

高等科新設　兒童樂園に

われ等が上野の杜に樂兒を迎へてから三年になり、現在々園者は二百九十九名この中八十三名が三月には小學校と共に本園をも卒へることゝなるので、これ等の子供達の將來の爲に更に高等科を新設して世間の要望に應ずることゝなつた。

すなはち財團法人音樂會館を設立者として本春四月より高等科が開設されるが、中等學校と平行して、四ケ年間本校内で養成されることゝなつた。而して尙この高等科卒業後更に研究を續ける者の爲に一ケ年の研究科まで設置される。

念の爲に付加するが我等の所謂早期音樂教育とは專門教育を指すものではなく、兒童の音樂生活を指導し、國民たる教養を藝術方面に於て高むる意味のものであるから、小學校に於ける基礎教育に抵

觸するものでない許りか寧ろ之と協調し更に之を助成して國民教育の徹底に寄與すること必定である。

次に入園に關する要項を左に掲げて置くから御吹聽を乞ふ。

入園資格と考査

尋常科

現に小學校に通學する尋常科第三學年の男女兒にして第四學年に進級の見込あるもの。

但し四月に尋常科第三學年又は第五學年に進級の見込あるものを入園せしむることあるべし。

入園志願兒童には左の考査を行ふ。

唱歌

一、簡單なる長音階

二、左記の唱歌より一曲を兒童に選定せしめ歌詞を以て唱はしむ。

イ、汽車　ロ、鶴越　ハ、日本の國（文部省新訂尋常小學唱歌第三學年）

器樂（ピアノ、ヴアイオリン、又はセロの中より一科目を選ばしむ）

既修樂曲中隨意のものを奏せしむ。未だ器樂を修めざる者には適宜簡單なる考査を行ふ。

高等科

（一）上野兒童音樂學園卒業者中より考査の上、入園せしむ。但し原則として中等學校に在學すべきものとす。

（二）本園卒業者に非ざるも人物技藝卓拔なるものも考査の上入園せしむ。

入園希望者には左の考査を行ふ。

唱歌　ヴユルネル著コールユーブンゲン第一編の中より No.63, No.73 の D の何れかを選ばしめ、階名にて唱はしむ、（なるべく固定ド唱法に依ること）

器樂（ピアノ、ヴアイオリン又はセロの中より、一科目を選ばしむ）

既修せる樂曲により考査を行ふ。

樂典　簡單なる樂典の試問。

研究科

本年度は未だ設置せず。

修業年限及授業時間數

尋常科	三ケ年	授業時間	毎週　四時間
高等科	四ケ年	同	四時間
研究科	一ケ年	同	四時間

入園の定員、入園考査日割、始業日

入園の定員

尋常科	約八十名		
高等科	約三十名	聲樂志望者	約七名
		ピアノ志望者	約十八名
		絃樂志望者	約五名

入園考査日割、始業日

三月三十日（月）午前八時三十分　尋常科考査

三月三十一日（火）午前八時三十分　高等科考査

四月　一　日（水）午後一時合格者（入園志望者の考査合格者發表）

四月　八　日（水）午後三時入園竝始業式

教科課程

尋常科

唱歌と器樂（ピアノ、ヴアイオリン又はセロの內より一科目を選ばしむ）

その授業時間は毎週左の如し。

唱歌　二時間　　器樂　二時間

高等科（但し考査の上轉科せしむることあるべし）

聲樂部（聲樂、唱歌、ピアノ、音樂理論）

器樂部

ピアノ志望者（ピアノ、唱歌、音樂理論）

絃樂器志望者（ヴアイオリン又はセロ、唱歌、音樂理論、ピアノを兼修し得）

その授業時間は毎週四時間にして時間割は別に定む。

研究科　本年度は未だ設置せず。

授業日及學費

授業日

尋常科　水曜日（午後三時――五時）

土曜日（午後一時――三時）

高等科　月曜日（午後三時三十分――五時三十分）

木曜日（午後三時三十分――五時三十分）

學費（月額）　尋常科　五圓　高等科　八圓

學園の機能

一、學園に於ける研究を發表し又は授業を公開して兒童の音樂教育の一般的指導機關とすること。

二、音樂演奏會、研究教授等により兒童の成績を公表し、兒童の研究心及興味を助成すること。

三、東京音樂學校生徒をして實地練習の爲め兒童の養護竝びに指導教授の一部を擔當せしむ。

入園手續　其他は本校內樂園に照會のこと。

（『同聲會報』二二〇号　昭和十一年一月　八〇～八二頁）

上野兒童音樂學園だより

昭和十年度に於て學園が第一回の卒業生を七四名出した事は既に三月號でお知らせして置いたが、その後卒業試驗に缺席した兒童三名の追加考査を行つて卒業證書を授與したので、通計十年度の卒業生は七七名になつた。

高等科を新設したについて、これ等卒業生の大部分が受驗し、外部から六名の受驗者があつて、競爭試驗は相當激烈を極め、愼重考査の結果左記四六名の入園を許す事になつた。當初の豫定では嚴選して三〇名位入園せしむる豫定であつたが、受驗兒童の樂力伯仲して入園資格者數遂に豫定より一六名も超過したといふ事は喜ぶ現象と言はなければなるまい。その入園を許された者の氏名は左の通りである。〔氏名略〕

學園尋常科の入園志望者は一三〇名であつたが、その中考査の結果一二一名に入園を許可した。學園も追々その名譽が全國的になつ

て來た爲に、今年は岡山一名、大阪二名、京都一名、沼津一名、高田一名等相當に遠方からの受驗者もあり、近縣では例年の通り千葉、神奈川、埼玉、群馬等からの受驗者があつた。

學園就學兒童の現況は學期始めと共に追加編入などもあつたので四月二十三日現在では

一　年　一二五名　內男　二二名
二　年　一〇一名　內男　一一名
三　年　七八名　內男　一五名
計　三〇四名

高等科

一　年　四六名　內男　七名

で尋常科、高等科を通じて合計三五〇名の在學兒童がある。

本年度から試ではあるが、學園にも西洋人講師を招聘した。これは本年度から本校の講師に就任したヴァイオリン家ヴィリー・フライ氏で、現在の處二人のヴァイオリン科の兒童の御面倒を願つてゐるが、その成績如何によつては將來他の科でも西洋人講師をお願ひするやうになるかも知れない。兒童音樂學園はかうして段々と榮えて行く。

兒童學園を顧みて

城多又兵衛

月日の流れは早いとは古い譬喩に知りつゝも左程に感じないものではあるが、ある仕事を省みては、夢の様に感ずるのである、三年前の六月、伊太利より歸つて、二三日しかたゝない矢先に、兒童の教育を命ぜられ、何も知らず、大先輩にすがりつゝとうとう、その日〳〵を送つてしまつた、又年を代へて、新しい一年を持ち舊轍を歩まない様に改良したいと考へて居る、學園創立の趣旨は規則書にある如くであるが、方法については何等指示がなかつた創立の最初はどうしたらよいかと澤崎、淺野、貫名の諸先生と盛んに協議を重ねたのであつて、學園頭初に猛烈な無鐵砲な主張を幾つも並べ立てゝ意氣まいて見たのだつた。

學園で二つの大きな獨創とも云ふべき試みをしたことは一つは器樂と唱歌とを並べて教授をしたこと、この教授に最も適して居る、固定ド唱法を採用したこと、これは一大決斷であつた、惡けりや止めるとまで決心をして、やつて見た、考へて見ると成功して居ると思つて居る。一年は四年（小學校）であるから歌曲主義に行かう、餘り樂典の如きにとらはれず、と云ふ傾向で、始め辿つたが、これも大人の考へる杞憂であつた、小供は面白がつて色々面白くないだらうと思つて居たことを覺えてくれた、二年になつて、小學校の教材はつまらないと不平を云ひ出した。

勿論、口に出して言つたことは毛頭ないが、つまらなさうな顏をして居るので思ひ切つて輪唱をやつた、これはよかつた、二年目の秋に第一回の演奏會をやることに決心して、三部の輪唱、二部合唱（憧の夢）をやつた、女學校の二年位の力はあると自信たつぷりの顏をして居た、二年目の冬には、マーラーのシンフォーニーの合唱に參加した、マーラーは「どうだらう？」との心配は完全に解消して易々として鳴つた、こゝに於て始めて學園が少し役に立つ、外國の兒童のやるものは、やれるのだと思つた、外部から、兎角批評が

ましく云はれた、が、兒童はマーラーに出てから音樂を一層深く〳〵理解する樣になつた樣である、上すべりの淺い理解より進んで深い理解にまで堀り下げられた樣であつた、批評がましく云ふのは、エチユードの進みが遲れたと云ふ風な、目で見えた順序がくるつたのについての心配であつたのであらう、三年目にはリストのダンテ、シンフォーニーに出演した、これはマーラー以上のものであるにも不拘、無事やることが出來た、これを考へて見るに、我國の音樂史を語るならば、必ずこのことは大書にして、世界のレベルまでの仕事を學園の兒童が果したと、殘して慾しい、童謠より進んで、堂々たる、兒童の唱ふ高級なるものを唱へる樣になつた、このことは學園の誇りである、器樂について考へるならば、「興味よりも着實に」をモットーにして勉强した甲斐は、確かにあると思ふ、兒童丈のピアノ、トリオもやつた、ピアノコンツエルトも彈ひた、決して負けない力を握つて居ると思ふ、器樂の方は專門の先生に讓つて、將來の方針について私見を述べて見たい、兒童學園の仕事は目下の許される範圍では、充分のことをして居ると信じる。

現在の教育狀態ではこれ以上のことは出來ない、慾を云へば一人づゝの個人教授について時間をかけることを考へるより他に道はない、この問題も目下獨立して居る私立團體としてこれ以上のことは出來まい、小學校の教育から考へて、小學校の負擔をも考慮に入れるならば、健康がつゞかないと思ふ、音樂は單なる讀書の如く理解する丈ではすまないもので、時間をかけて充分の練習を要する、これが非常な兒童にとつての負擔である、音樂は幼時よりの教育が大切であることは、歷史を見ても明かなことであるが、通學と云ふことを考へると、尋常三年より少さい兒童の入學せしめることは不可能である、それより小さい兒童の音樂的教育をもしたければ附屬小學校を作り、教課程の中に織込んだ授業をするより他に道はあるまい。中等學校も慾しい、將來、實現化させ度い。

今年より高等科を作つて、稍々專門的の教育を始めた、未だ結果については云へないが、二三の困難な問題にぶつつかつて居る、第一大問題は變聲の問題である、聲變りと云へば一笑に附される問題であらうが、學園としてはとても大切な問題である、この問題の研究に力を入れて見たい考へである、次は專攻樂器及び專問（ママ）の決定である、これも容易なことではない、この問題は何れの方面に於ても困難なことであるから特に留意してある。

將來の學園は兒童の成長に伴つて、益々廣範圍の適切なる教育がしたい希望である、例ば目下行つて居る、ピアノ、ヴァイオリン、セロ、聲樂は勿論、作曲、ハープ、木管、金管等に到るまで適切な生徒を見出せば、教育し、實際、立派な音樂者を作り度いのである、この生徒の中から一人でも、現在我が樂壇のレベルを拔くものが出たら、滿足である。

かく希望を有し、その目的を達成すには、上は文政各關係諸官より下は一般愛好音樂者まで、正しき認識と關心をもたれて、音樂も亦、他の知能科と同樣に幼時より正しき制度により漸次的の教育に援助を佛はれる樣切望する次第である、女學校や中學校の卒業間近になつてから、急作りの勉强をしても大成は困難であることを再言したい。

本學園では趣旨通り尋常科に於ては音樂の趣味の向上、及び音樂

による人格の陶冶が目的である、而して延び得る質のものは延ばしたいのである、高等科に於ても趣旨に於ては變るところなく、人格の陶冶に重きを置いて居るが、技術的方面も成長した生徒として高い教育を課して居るのである。回顧にしては理想的な夢になりすぎたが、顧れば自然と將來の希望がわいたので、そのまゝを何となく順序もなく、春宵の語りぐさに語りつゞけて見た。

（『同聲會報』二二三号　昭和十一年四月　四三～四九頁）

對獨放送

六月八日學園兒童に依つて

今年夏獨逸伯林に於て開かれる萬國オリムピツク大會を機を來る六月八日（月）午後八時から九時迄の一時間の中に日獨間の交換放送が行はれる。日本からは始めの三十分に放送、名士の講演其他に混つて上野兒童音樂兒童が、この國際放送の爲に特に下總覺三氏が新たに作曲した「征けよ、伯林」といふ二部合唱を放送する事になつた。この下總氏の新作曲の中にはナツイス獨逸の國民歌とも言ふべき「ホルスト・ウエツセルの歌」の動機が織り込まれてゐるから歌詞は解らないとしてもこれを聞く獨逸人は大いに感激するに違ひない。放送者は高等科生徒約四十六名で指揮は澤崎定之講師である。

次にこれも學園の新入生の中から選拔された二十名の兒童は來る六月九日（火）午後二時から學校放送で尋常三年の歌を放送する。指揮は城多又兵衛講師、伴奏は黑澤愛子講師である。

（『同聲會報』第二二四号　昭和十一年五月　三九頁）

兒童學園便り

學園創立滿三年に當りて

園長　乘杉嘉壽

創立の由來

本園創立の趣旨に就ては、凡ゆる機會に文書或は講演によつて屢、繰返し述べて來て居るので、今茲に改めて說明する必要もないが、要するに音樂は何といつても早教育を施さねばならぬといふことは、古來の定見であつて、所謂藝事は幼少の頃から始めねば到底その完成を見ることは出來ないのである。明治以來の新教育制度上に音樂科が採用されたのは可なり後の事であり、一般に音樂教育の重要さが認められたのは最近の事であつて、音樂は從來教育上に於て重要視されず、又音樂教育の方法上に於ても判りきつた事柄が實行されなかつた實狀であつた。余は當校に赴任以來、此の專門學校の實績を擧げる爲めには、所謂專門學校令による專門教育自體では到底完全な仕事は成遂げられるものではなく、殊に特殊な技術を要する音樂に於てはこのことが、一層判然としてゐるので、どうしても專門教育に就く迄の間の教育と聯絡をとつて今後一層の緊密さを以て關係づけて行く事が必要なることを痛感して居たものである。而してこれが實行方法に就いて種々熟慮の結果、現行の小學校竝に中等學校に於ける音樂教育が實際に重要視される樣に仕向けることが最も必要であり、又出來れば小學校から中等學校に至る間に特別な音樂教育を施行することが妥當であると考へ、殊に本校には師範科なる制度があるので、中等教員を養成する上に、その教授法の實

習上必要なる對象として、こゝに新たに案出されたものが、即ち本園であつた〔。〕もとより大分以前に、文部本省に對して、豫算請求の際、特殊の音樂高等女學校設置案を提出したこともあるが、經濟竝に學制上の關係で本省の容るゝ所とならなかつたのである。かくして數年後、昭和六年に、余は急に思ひ立つて外遊し、主として音樂教育の狀況を視察してきたのであるが、獨逸・佛蘭西・英吉利・伊太利・亞米利加合衆國諸國の著名な音樂學校を視察した折その中にて何れも本國の如き組織のものが、既に兒童學級として開設されてゐるのを目擊して來たのである。かくて同年末に歸朝、翌七年は學校の事務多端と思想問題にわざわひされて、その實現を見るに至らなかつたが、八年になつて、こゝに始めて年來の宿望たる本園の創立を見るに至つたのである。即在來考へ來たつた音樂教育上の理想及本校教育上の圓滑なる實施に對する希望と、更に最近の歐米諸國視察とが起緣となつてこゝに本園が誕生したのである。本園の創設に當つては、政府自身が當然經營すべきであるけれども、前述の如き經濟上竝に學制上の問題と關聯して、止むなく私設の仕事としてこれを行ふことに決定したのである。もとより官有の財產たる校舍及器具を借用せねばならぬので、文部當局に對しては、本園設置の趣旨は、一面には本校生徒の教育の必要機關として設けるの一點張で願出たのであるが、それにもまして眞意は、本校教育の全面的の進步發達の上に格段なる躍進を遂げる素因ともなるべき音樂の早教育が目的であつたのである。幸に文部當局に於てもその眞意を理解され、又一般教育界竝に父兄もよくこの間の消息を理解され、豫想以上の好成績を以て學園の開設を見るに至つたのである。かくして惠まれたる學園の創立を見てからはや滿三ケ年の年月を經たのであるが、幸ひにして多數關係職員各位の甚大なる協力により着々理想の實現に向ひつゝあることは、創立者たる余の深く感激し感謝する所である。

さて次に本園の光榮とし幸福とする所は、本校の校內に設置されてゐることであつて、本校との法制上の連絡は無いが、教育上に於ては不即不離の有機的關係にあることである。從つて本園創設以來、本校が受けた最大光榮である。皇后陛下の行啓、その他宮樣方の臺臨（ママ）に際しては、本園兒童は御前演奏の光榮に浴し、又本校の大演奏會には欣然として子供としての役目を以て出演してゐるのであつて、本校が本園に教育上の實習機關として求める所が大であれば本園も又本校に有機的に働きかける所も甚大であつて、自利利他の圓滿なる關係を形成してゐることは、誠に有難き極みであつて、このことは蓋し兒童も父兄も充分理解し體驗されてゐる所である。

次に新たなる喜びとして特筆すべきことは、本園も試練の三ケ年を無事に經過し、今回高等科の新設を見たことである。高等科の設置に當つては、文部當局に豫算編制の際右を別科として本校の機關の一部に附屬せしめんことを力說したのであるが、これ又經濟上學制上の問題に關聯して實現を見なかつたのであるが、今後とも益々これが實現に不斷の努力を續けて行く考へである。たとへ急には實現せずとも、學園の生命は永遠であつて教育上の理想が着々實現されて行くことは無上の樂しみであり、今後四ケ年後の結果は、それが總べてゞはないにしても、これによつて我が日本の音樂の所謂文字通りの躍進が實現される日を想像して、たゞ〳〵歡喜と感謝の念

に充ちてゐるのであつて、吾人はこの際謹んで文部當局竝に一般教育界名位の協力と同情に對し厚き敬意を表すと共に、父兄の深き理解と兒童の不斷の努力に對して滿腔の感謝の意を捧げんとするものである。

回顧と所感

唱歌科　澤崎定之

學園創立の當初、應募者が豫定人員の三倍以上もあつた。園長は折角望まれる兒童を收容出來ないのは誠に氣の毒である。のみならず事情さへ許せば能ふ限り多くの兒童に音樂の早期教育を施すのが本園の目的だから、本年は三組百二十名位を入園させてよろしからうとの事で考査に臨んだのであつたが、好きなればこそ上手だと思はれる、即ち音樂に趣味があり組織的教育に堪へる程度の才能ありと認め得る者は悉く採つた。極く少數の、音に對して甚しく鈍感で到底一所に修業してゆく見込がつかない人、例へば才能に惠まれない兒童を何とかして特別に教育して貰ひたいと學園を音樂の特殊教養所と誤認されたらしい人を御斷りしただけであつた。特例は別として音樂的才能の有無を僅か一度の考査で、而もこの年齡兒童に對し決定する事は中々容易な業ではない。概して組織的な教育を施して見て初めて將來を期し得るものであらう。それはとに角として希望者の大多數を收容し得た事が何よりもよろこばしい事であつた。

さて學園の教育大綱（設立趣旨）に對する實際的態度、方法については愼重に協議を重ねた、確實なる基礎に主眼をおき、授業方法はもとより各般の事業亦此態度を持し、苟も眼前に成果を急ぐ事を誡め大成を期す事、さればとて兒童の可能なる事をも尙不可能視するが如きはとらざる處との見解の下に、唱歌科では先づ固定ドか移動ドかの問題を檢討の結果、各その利害得失をよく考慮した、一般小學校では現に移動ドによつてゐるのであるから、こゝでは本校同樣伊太利音名唱法即ち固定ドで進め、無理なく固定、移動各の特徵を體得せしめ得ば之に越した事はないと考へて實施する事に決めたのであつた。

私共三組擔任の三教師は殆ど毎授業前の三十分及至一時間を、評細なる協議、檢討、批判にあてた。然し目的に達する爲の手段方法に就ては互に阻害する事なく各信ずる處を適用する事にした。かくて約二ヶ月の兒童進度につき打合せたるに唱歌のみを修める者に比べて器樂兼習者の方が音樂的理解上、より良好な過程をとる事が明瞭に分つた。器樂兼習を許すといふよりも寧ろ之を必須科にするやうの建言をして今日の組織になつたのであつた。

當初における私の態度方法は、必らずしもその理由（ワケ）を十分述べる事が出來ない兒童でも、聞いた音を直ちに歌つたり、書いたり、（又は彈いたり）する事が出來るやう、即ち音樂的機能を耳を通じて明瞭に理解するやうに導く事であつた。で先づ歌曲構成の主要和音たる和聲學上の一度四度五度の和音に親ませる事に全力を擧げ、かやうにして音の高度と調の感覺との體得に毎時練習をつゞけた。そして之を簡單なリズムより次第に稍複雜なものに結び付けたアルペジオとして聞かせたり歌はせたりさせていつた。發音については、兒童は例外は別として大人よりは素直である、實際又無理さへしなければ兒童獨特のあの美しさを十分發揮出來るのであるから、

決して發聲法などゝとり立てゝやかましくいはずに、全音域の聲を平均させる練習をさせた。それは先づ中位の高さの音から下行音階により凡ゆる母音で各音の强度を平均せしめ、その要領で上行音階又はアルペチオを歌はせたが、いつも之等の仕事は教材歌曲と有機的に結び付ける事を忘れないやうに注意した。かやうにして一方聽音は初めは主要和音のアルペヂオで、次第に三和音をと進めていつたが順々に聽いて歌はせる仕事は誰から初めても十一人目までは確實に當てるやうになつた。寧ろ豫想以上にすく〳〵と延びていつた。この十一人目から感覺が亂れるのは、多分注意力疲勞の爲に起る事と思はれた。かくて絶對音を知る者も多數になつた。

或日此のやうな基本練習後その日の歌曲を教へる階梯としてホ短調からホ長調への轉調を板書してピアノも彈かずに兒童達がスラ〳〵歌つてゐる處を參觀にきた人があつた授業後その人から色々質問を受けたがその返答は遂に理解して貰ひ得なかつた事を今でも思ひ出すのである。實際說明語ではいひ表はす事の出來ない音樂的常識＝この場合は音、リズム及調に對する感覺である＝を兒童が何の苦もなく早や感得してゐるのである。興味を持つが故にかくも勤勉なのだそして此結果を得られたのだと却つて吾々が教へられてゐるやうにさへ感じたのであつた。

最初の父兄會の時私の受持の父兄諸氏に「御子樣が假令將來專門家になられるにしても亦單に音樂的教養のある方になられるにしても、今の場合は身體が健康に順調に發育してゆくと同樣に音樂の方も健全な基礎を作りゆくのだと御考へ願ひたいのです、一週一時間お宅での御稽古によるよりも毎週四時間この上野の音樂的雰圍氣の中で樂しく生活して何の無理もなくいつとはなしに、丁度吾々が言葉を覺えたやうに、音樂の常識を養つてゆきたいと思ひます。折角延びてゆく大事の御子樣なればこそ盆栽のやうに育て上げて大人の玩具になるやうな事のないやうにお互に注意いたしたいと存じます。どうか目前の成功をお急ぎ下さらないやう、そして學園にきてゐる間は私共にお任かせ下さい」と述べたのであつたが、今も尙私はこの態度でゐる。

演奏會は兒童の學習過程の成績發表である事を忘れてはならない。今日まで數回の演奏會につき唱歌科として顧るにそれ等は豫期の目的に適ひ好果を得てゐると考へるのであるが、殊に兒童の聲の特色を織り込まれた大家の作品（概して兒童の唱歌にふさはしく出來てゐる）演奏に參加した事は、上野で育てられたたばこそなし得又學園の惠まれた特權とも思ひうれしく思ふのである。マーレルのシンフオニー演奏の際の出來ばへよりもそれを契機として兒童の音樂的教養が一段階登つた事を私は心からうれしく思つたのであつた、昨年のリストは私は聞く事が出來なかつたのが恐らく同樣の好果を豫想出來るのである。

今や滿三年を經て學園も益々大規模になつた。教授者も生徒も兒童も愈々精進して違算のないやうにしたいものである。以上思ひついたまゝを。（一一、四、二七）

第一回卒業に際しての感想

——主として父兄方の爲に——

ピアノ科　貫名美名彦

此度愈々第一回尋常科兒童の卒業に當りまして學園創立以來の三年間を顧みますと誠に夢のやうにも思はれますが其時々にあつた色々な思ひ出を考へますと又一々の事が昨日の事のやうにも思へます。

かういふ意義ある仕事を始めるに當つて、果してどれ程の成果た得られるものか考へると空恐しい位の感がありました。然し愈々新入兒童が始めて教室へ來て、其の希望に滿ちた、潑溂とした、元氣な容子を見たり、熱心な勉强ぶりを見ては却て大いに勵まされました、そうして互に勉めながら今日迄になりまして、先づ順調な成長を見ました事は流石に喜びを禁じ得ません。然しながら此兒童達の背後には、各父兄方の大きな慈愛の力が常に加へられて有つた事を考へますと誠に涙ぐましく敬意を表する次第であります。

これから少しく音樂上（主としてピアノ科の立場から）の事に就いて自分の考へを申して見ますと、尋常科の目的では將來專門家に成る者の爲のみでなく、教養として習得するものもあるのですし、未幼少の事ですから餘り嚴格な事を云へませんが、兎に角本格的音樂の學習及び理解への方向に進めて來ました。

然しこれは中々困難な事です。建築にたとへて見ますなら、立派な大伽藍を建立するとしますと、先づ良材（素質）がいります、技巧（努力）がいります、そうして時間（健康）がいります。愈々工事を始めますと壯大なものを望む程基礎工事が充分でなければなりません。之が中々大變です。土を堀つて一々もつこで運んだり、地盤の惡い所へは杭打ちも必要でせう、石や煉瓦を一つ一つ積み重ねなくても成りますまい。こういふ仕事は中々骨が折れて忍耐と努力を要する事です。而もはたから見ては一向捗々しくない目立ちません。殊にヴアイオリンのやうなものは此點では一層であると思はれます。然し此等の理解なくして唯目先の事だけを考へて性急に出來上らせやうとすると、つい間に合せの安手な博覽會場のやうなバラツク見たいなものに成つてしまひませう。他の例で云へば尋常科二三年の兒童でもモーツアルトの簡易なピアノのソナタは彈けるでせう、然し其同じ曲をピアノの名手が彈いた其の差は硝子玉と寶玉とのやうなものです。それは無論素質にもよりますが純技巧のみに就いても基礎的の素養の如何による事です。過日獨乙のピアノの名手ケムプ氏の講話の中に自分はモーツアルトの或トリラー（二つの音を交互に急速に彈く箇所）を彈くのに三四年の練習を費したと云はれて居ります、然しそれは單なる三四年ではなくそれ迄にどれ程の基礎練習があつたかを考へなければなりません。考へて見ますと音樂（此處では洋樂）は單に技巧的に見ても大變むづかしいものであります。

斯樣に申すやうなものゝ何しろ兒童の事ですから、餘り興味の持てないやうな事のみで飽きさせて、音樂を嫌ひにして了つては、角を矯めて牛を殺すやうに成りますから其點も亦充分考へに入れなければなりません。時には弊害を注意して音樂會などで演奏させるのも亦効果的でせう。

次に授業上に就いて父兄方が常に深い御關心を持たれて居る事は想像以上のものゝやうに存ぜられます。自分等微力のものは其れ故いろ〳〵と工夫をし手段をめぐらしてやつて居ります何しろ個人教授の事ですから教授法にしましても見方によりましては千差萬別で

あります。一人の兒童に就きましても、其性格や音樂的素質を充分考へてそれに從て取扱はねばなりません。又兒童の其の時々の心境の變動や健康も考へて臨機應變の所置も肝要です。よく云はれる事ですが、誰は課題曲の進み方が速いとか遲いとか云ふ事でも、それは取扱ひ方によつて一概には云へません。同一課題曲を、素質のよい甲には非常に嚴密な意味でやらせますと中々時間がかゝります。又餘り素質のよくない乙には、素質上餘り嚴密には出來ませんので、單に課程の進行上一通りにやらせますと却て時間がかゝらず進みます。又其兒童が大變能率の上るやうな機會を摑めば少し無理な位にまでぐん〳〵伸張させて行く事もあります。又些し上つ調子の時にはぐつと引き締めて行く事もあります。

こんな工合でありますから、局部的に見られますと一寸御了解のつき兼ねるやうな御考へになられる事もあり、又説明もかういふ專門的の事殊に音樂などでは、云ひ表はし憎い事もありまして御得心を滿たし兼ねる場合もある事と思ひますが、技術上の事に就いては成るべく御委せ置きを願ひ度いと思ひます。唯父兄方に最も御願ひ致し度いのは兒童の健康であります。それと家庭での練習の事であります。單に時間的の事のみで結構と思ひますから一日に二三十分づゝ二三回以上の時間を御與へ願ひます。高學年に成ると一層です。此點御理解の不充分な御家庭もあるかのやうです。唯學園に通つて居ればピアノは彈けるやうに成ると、考へて居られる向もあるかのやうにさへ思はれる事もあります。教室では家庭で或時間を費して或形を作つて來たものを、色々不充分な所を直したり、此次にはどういふ風に作つて來るやうにとか、又他の人のものゝよい處や惡い所をよく覺えて、又家へ歸つてよりよくやり直させたり指導するので、一人當り十分十五分の授業時間ですから家庭での練習時間がなければ到底進歩は望めません。此點特に御了解が願ひ度いと思ひます。

此度は又、高等科が新しく設置されまして一段と完成度を高める事になりました。

此の方は先づ將來專門家に成る希望の兒童でありますから其取扱ひ方も大分變つて行く事に成りませう。今迄尋常科の時には、子供扱ひで幾分甘く育てた所もありましたが今度は教へる方も教はる方も大分しつかりやらなければ成りません（無論心持ちは神經質的でなくガツガツせずのんびり明朗であり度いのです）。殊に基礎的の事など一層嚴格に引締めて行かねば成るまいと思ひます。從つて今直ぐに一寸間に合ふやうな形は出來上らないかと思はれます。例へば、云ひ過ぎかも知れませんが御客間の安價な意味での御慰みには向かないと思ひます。

多分兒童も、眞劍に一生懸命な努力を（無意識にでも）する事でせうから、此點御深慮を以て一層御理解ある兒童への御愛護と授業上に就いての御支援を幾重にも御願ひ致す次第であります。

新卒業生を送つて

ヴァイオリン科　井上武雄

何から書き出してよいものやら、手を取つて教へたあの時の一年生が、もう三年を了へて、尋常科を巣立つて仕舞つた。月竝みな感慨無量と云ふ言葉より他に、何の言葉もない。先日の卒業演奏を聽

いて、他家の御馳走はおいしいならひ、隨分、ピアノも合唱も上手だと思つた。獨りヴアイオリンばかりは少しく立ちおくれてゐる樣な氣がしてならなかつた。愚痴めいて男らしくもないが、ピアノでも、唱歌でも、皆入學試驗には何か彈いたり、歌つたりして入つて來る。これから習ふと云ふ樂器に對して可成りの教養をつんで來てゐる。それに引きかへヴアイオリン科ばかりはとてもなさけない。樂器を持參するものは皆無、おぼろげながら、ヴアイオリンの形を頭に畫いて試驗を受けに來る。器樂兼修の掟は、比較的容易に手に入るヴアイオリンを撰ばせるらしい。

試驗は如何に？　お手々拜見、指は六本ありませんな？　ひどいまむし指ではありませんな？　一番小さいヴアイオリンがうまく支へられますか？　これに及第したものが一年の入學を許可されるのである。賴るものは、唱歌の點數ばかり、こんな試驗がまたとあらうか。試驗官のやり場のない顏は、正に漫畫物である。これが第一回の入學試驗の實狀であつた。その子供等も、三年經つて、出て行つて仕舞つた。私達の仕事は大骨折りであつた。樂器を買つて與へる。これが而も、おもちやに等しいものである。樂音を出すより、松脂の軋る音のみ出す樂器である。始めて持つ樂器の弓の持ち方から教へる。

ピアノの樣に音程の心配がないと良いなとこれがいつも皆寄合ふと出る言葉だつた。運弓法ばかり何週間とやられても嫌な顏一つせず、父兄も亦よく理解されて、子供の教育を委して下さつたのには、今更感謝に堪えない。一時間に四人づゝ、合はせるそばから狂ひ出す樣な、厄介な樂器の調子を整え〳〵それでも半年一年と、どうやら樂音に近い音で、教則本を休み〳〵奏く樣になつた。何せ十か九つの子供である。大した努力、涙ぐましい樣な子供の勉强である。音程を正しくする、これが一番生徒には重荷らしい。音程の苦心これが、他の有鍵樂器に比して可成り難關らしい。ヴアイオリンで、ト長調の音階を奏くことは容易な技ではない。或は讃め、或は叱り、宥め賺してそろり〳〵と導いてゐる時に、兒童學園の第一回演奏會の議が起つた。ピアノは、夫々ソロもあり、合唱も曲目の內に取り入れられて、ヴアイオリンは如何ですの交渉を受けた。その當時はまだ私達の方では教則本ばかりで、曲をやらせるなんて思もよらない初步の時であつたので、實に面喰つて仕舞つた、演奏會に一つでも入れなければ、ヴアイオリン科の子供に、ひけ目を感じさせるであらうし、又反對に、なんでも精一杯の實力を出して、教室の延長として、他の器樂や歌の人達と、同時にステージに立たせることが、うまくゆけば向上心の導因になるかも知れぬと講師一同で相談して一人二人のソロはぬきにして、二年生の全部を、奏けなくても各々その分に應じたものをひかす樣にと、平易な二重奏曲を撰んでステージに上らした。演奏は隨分上手にやつてくれて、私達一同はほつと、一安心が出來たのであつた。併し、演奏會の結果、まるで正反對な現象が出來て仕舞つた。一年生は、自分達も、よく勉强すれば二年生の樣に音樂會に出してもらへると、その演奏會後の皆の張り切り樣と云つたら無い。誰も彼れも、大馬力で勉强をしてくる樣になつた。演奏會の効果が、こんなにまではげしいものだとは、思つてたよりものすごいので私達はびつくりした。これは良い方の現象であつた。反對の現象とは、親の慾目である。この次には

家の子供を出して欲しい。何ケ月かゝらうとも、演奏會用の曲をやらしてくれないか!!

とんでもない話である。樂園の演奏會と云ふものゝ意義を履き違へた御注文である。演奏會は、教室の延長に他ならない。そも〳〵學園の主旨は音樂の本格的の基礎の涵養、教養の陶冶にある。蟻が己が巣を作るに、營々として休まず、孜々として撓ゆまぬ底の、眞面目な勉强を欲するものである。長い月日かゝつても、演奏會の大曲をかためる、これは教師の名譽心の發露以外何ものも存しない。撰ばれた生徒は、未だ、爲さねばならぬことの多いその貴い長い月日を、そう云ふ、曲げられた目的のために、自分の本質を歪められることが實に甚だしい。親が若し、こゝに氣が付けば前の様な言葉も出なからうが、盲愛の雲は、やゝもすれば子供の行手を塞ぐ妖雲に化けて仕舞ふ。私達一同はこの誘惑にかゝらぬ様にお互ひに相談し合つて、兒童には無休、親には、お客様への御自慢話の根を斷つ様なるまで、素氣ないと思はれる様な教授法をして來た。一筋に子供そのものが可愛いばかりの親初氣(ママ)に他ならない。確りした土臺さへ出來れば、何十階の家でも建てられる。砂の樓閣、人絹の擬ひ物は、いづれの社會でもとらぬ所である。

此の度三年の課程を了へて巣立つた卒業生の演奏會に曲りなりにも、コンセルトと名が付き、ソナタと呼ばれる様なものが曲目の上に現れた時、その昔入學試驗の様を思ひ浮べて、まことにまことに感慨無量のこの言葉を重ねざるを得なかつた。子供もよく勉强してくれた。父兄もよく、導いて下さつた。そしてあの曲目をならべることが出來たのである。おもちやのヴアイオリンが、一萬圓もするピアノの伴奏を從へて、堂々と張り合つてくれた姿を見る時、私達一同は、三年間の苦心も、一瞬に忘れて、父兄と共に子供の成長を喜ばずにはゐられなかつた。(了)

(『同聲會報』二二五号　昭和十一年六月　三三～四三頁)

樂園兒童演奏會　七月十五日父兄會に於て

上野兒童音樂學園父兄會は七月十五日午後一時より上野の本校に於て開催。

乘杉園長の訓話についで、樂園兒童吹込レコードの披露演奏があつて、左の通り兒童の演奏會に移り最後に父兄の懇談會をもつてこの日の幕を閉ぢた。午後四時半。

演奏曲目

一、齊唱　尋常科一年生
　イ　夏の月……新訂尋常小學唱歌四學年用
　ロ　橘中佐……同
二、ピアノ獨奏　青山三郎
　ソナータ、ト長調第一樂章……ベートーフェン作
三、ピアノ獨奏　瀧川淳子
　夜曲……ライボルト作
四、ピアノ獨奏　稲垣弘子
　天使の使……ブルクミュルラー作
　タランテルラ……ブルクミュルラー作
五、ピアノ獨奏　佐藤靜修
　「アテネ廢墟」中の土耳古行進曲……ベートーフェン作

六、二部合唱　　尋常科二年生

イ　子守唄……旗野十一郎歌　ブラームス曲

ロ　雲……水野農三歌　ホツフエール曲

七、ピアノトリオ　　ピアノ　熊坂明　ヴァイオリン　渡邊文江　セロ　高橋一太

ロンド、ヘ長調……ハイドウン作

八、ピアノ獨奏　　林美智子

イ　春の歌……シューマン作

ロ　長閑な五月よ……シューマン作

九、ピアノ獨奏　　渡邊美惠子

土耳古行進曲……モーツアルト作

一〇、ピアノ獨奏　　笠原敏子

ソナータ・ト長調第一樂章……ハイドウン作

一一、合唱　　尋常科三年生

菊の盃……林古溪歌　ベートーフエン作

夏のひかり……二宮龍雄歌　ホウソン曲

（『同聲會報』第二二六号　昭和十一年七月　五五～五六頁）

上野兒童音樂學園便り

樂典教科書成る

今回「本園の教科用として音樂理論の基礎を學習せしめる目的のため」に下總皖一君に囑して編纂中の樂典が出版された。音名も日本名の外に學園で採用してゐる固定ドの讀み方を採用した、非常にフレッシュな好適な樂典の誕生を祝福したい。兒童達の音樂學習上に裨益する所が大であらう。

（『同聲會報』第二二七号　昭和十一年九月　七二頁）

上野兒童音樂學園入園案内（昭和十二年度）

一、設立の趣意

兒童の生活に於て音樂が極めて重要なる教育的價値を有することは遍く識者の認むる所であるが、輓近の教育思潮は、音樂の如き藝術は、其才能に惠まれ之に趣味を有する兒童に對し、須らく其の早期より組織的に教育を施さなければならぬことを强調してゐる。されば歐米諸國に於ては、夙に兒童音樂學校の設けがあつて、兒童の音樂的才能を啓培するとともに、國民たるの教養を高むるため、組織的に音樂教育を實施してゐるのである。勿論茲に謂ふ音樂教育とは、專門の教育を指すものではなくて、兒童の音樂生活を指導し、國民たる教養を藝術方面に於て高むる意味の教育であるから、敢て學校に於ける基礎に抵觸するものではないのみならず、寧ろ之と協調し、更に之を助成して國民教育の徹底に寄與せんとするものである。兒童音樂學園はこの趣旨に基いて設立せられたものである。

二、學園の組織

一、名　稱　上野兒童音樂學園

二、目　的　兒童に音樂教育を施す

三、設立者　財團法人音樂會館

四、學　科　尋常科と高等科との二科があつて、尋常科は小學校在學中の者、高等科は中學校在學中の者を收容す。（但し特別の場合は園長之を定む）

高等科卒業後尚ほ研究するものゝ爲めに研究科を置く。

五、修業年限及授業時間數

尋常科	三ヶ年	授業時間　毎週	四時間
高等科	四ヶ年	同　毎週	四時間
研究科	一ヶ年	同　毎週	四時間

六、職　員　園長　東京音樂學校長　教員　東京音樂學校教官　委囑

七、校　舍　東京音樂學校（下谷區上野公園、電話下谷六〇一一）

三、入園資格と考査

昭和十二年度入園せしむべき兒童は左記の資格を有するものにて入園考査に合格したるもの。

尋常科

一、昭和十二年三月まで小學校尋常科第三學年に在學し、同年四月に第四學年に進級の見込あるもの。

二、昭和十二年三月まで小學校尋常科第二學年に又は第四學年に在學し、同年四月第三學年又は第五學年に進級の見込みあるものにして技術優秀にして成業の見込みあるもの。

三、特に奬勵を必要とする器樂等を志望するものにて園長の指定せるもの。

尋常科入園考査

唱　歌

一、簡單なる長音階

二、左記の唱歌より一曲を兒童に選定せしめ歌詞を以つて唱はしむ

イ、木の芽　ロ、赤とんぼ

ハ、川中島（文部省新訂尋常小學唱歌第三學年）

器　樂

ピアノ、ヴアイオリン又はセロの中より一科目を選ばしむ、既修樂曲中隨意のものを奏せしむ。

未だ器樂を修めざる者には適宜簡單なる考査を行ふ。

高等科

一、昭和十二年三月まで小學校尋常科第六學年に在學し、同年四月に中學校又は高等女學校に入學の見込みあるものにして、同年三月本園尋常科を卒業するもの。

二、昭和十二年三月まで中學校又は高等女學校第一學年に在學し（尚引續き在學し）昭和十二年三月本園尋常科を卒業するもの。

三、昭和十二年三月まで中學校又は高等女學校第一學年に在學し（尚引續き在學し）昭和十一年三月本園尋常科を卒業し同年四月より東京音樂學校選科に在學し唱歌・器樂を修學中のもの（選科在學證明書を添へること）

四、昭和十二年三月まで小學校尋常科第六學年に在學し、同年四月に中學校又は高等女學校に入學の見込みあるものにして、人物、音樂技藝優秀と認めしもの。

五、特に奬勵を必要とする器樂等を志望するものにて園長の特に指定せるもの。

六、本園尋常科卒業生にして前項第一、第二、第三、第五に該當せざるも特に必要ありと認め園長の指定せるもの。

但し、高等科の兒童は原則として昭和十二年四月より中學校又は高等女學校に在學すべきものとす。

高等科入園考査

唱　歌

甲　第一回

聲樂志望者

イ、簡單なる方法に依る音聲考査

ロ、ヴュネル著　コールユーブンゲン第一編（F. Wüllner, Chorübungen I Stufe）の中No.32のC. No. 33のa, b, c, No.37のa. No39のc. No.41のa, No.61 No.74のdの中より一曲を考査の當日指定して階名にて唱はしむ。（なるべく固定〔ド〕唱法に依ること）

甲　第二回

聲樂志望者は文部省、新訂尋常小學唱歌第六學年用中の朧月夜、故郷、夜の梅、の中より一曲を考査當日指定して一番歌詞にて唱はしむ。

乙　器樂志望者はヴュルネル著コールユーブンゲン第一編の中、（甲第一回に掲示）の中より一曲を考査の當日指定して階名にて唱はしむ。（なるべく固定ド唱法に依ること）

器　樂

甲、第一回　ピアノを專修する者はソナタ、アルバム第一卷（Sonaten-Alblum-Band I. Peters 版）の全部及び同じく第二卷（Band II）中のハイドン（Haydn）モツアルト（Mozart）の中より既習せる一曲を選ばしめ考査を行ふ。（但し第一樂章のみを彈くこと。）

ヴアイオリンを專修する者は既修せる任意の練習曲（Etüde）により考査をなす。

セロを專修する者は既修せる任意の練習曲（Etüde）により考査をなす。

甲、第二回　ピアノを專修する者は甲第一回に於て彈きたる選擇曲及び、尙他に指定曲としてチエルニー、作品八四九、（三十番）（Czerny：Etudes de Mécanisme. op. 849）の第二十三番（ママ）（イ長調（A-dur）に依り更に精査す。ヴアイオリンを專修する者は既習せる任意の樂曲により精査を行ふ。

セロを專修する者は既習せる任意の樂曲又は練習曲により精査を行ふ。

乙、聲樂志望者は既習せる樂曲（練習曲にても可）（バイエル教則本（Beyer op. 101. Elementary Instruction Book.）終了以上の程度によりピアノの考査を行ふ。

樂　典

下總皖一著「樂典」（共益商社書店發行）の第二章樂譜（その一）（19頁）までの中より簡單なる筆記考査を聲樂、器樂志望者共に行ふ。

聽　音

ハ長調の簡易なる旋律の書取。

研　究　生

本年度は未だ設置せず。

四、入園の定員、入園考査日割、始業日

入園の定員

尋常科　約八十名

高等科　約三十名

聲樂志望者　約七名

ピアノ志望者　約十八名

絃樂志望者　約五名

入園考査日割

三月三十日（火）午前八時三十分　尋常科

三月三十一日（水）午前八時三十分　高等科

四月一日（木）午前八時三十分　高等科

四月三日（土）午後一時　合格者、（兩科共）發表

入園式、始業式

四月九日（金）午後三時　入園式（尋常科、高等科共　新入生のみ）

四月十日（土）午後一時　始業式（尋常科、高等科共、在學生のみ）

授業開始日

高等科　四月十二日（月）午後三時三十分

尋常科　四月十四日（水）午後三時十分

五、教科課程

尋常科

唱歌と器樂（ピアノ、ヴアイオリン又はセロの内より一科目を選ばしむ）

その授業時間は毎週左の如し。

唱歌　二時間

器樂　二時間

高等科（但し考査の上轉部せしむることあるべし）

聲樂部（聲樂、唱歌、ピアノ、音樂理論）

器樂部

ピアノ志望者（ピアノ、唱歌、音樂理論）

絃樂器志望者（ヴアイオリン又はセロ、唱歌、音楽理論、ピアノを兼修し得）

その授業時間は毎週四時間にして時間割は別に之を定む。

研究科　本年度は未だ設置せず。

六、授業日及學費

授業日

尋常科　水曜日（午後三時―五時）

土曜日（午後一時―三時）

高等科　月曜日（午後三時三十分―五時三十分）

木曜日（午後三時三十分―五時三十分）

學費

尋常科　一・二年　月額五圓

同　三　年　月額六圓

（但し昭和十一年までの入園生はこの限りに非ず）

高等科　　月額八圓

考査檢定料

尋常科　壹圓
高等科　二圓　願書提出の際納入のこと

七、學園の機能

一、學園に於ける研究を發表し又は授業を公開して兒童の音樂教育の一般的指導機關とすること。

二、音樂演奏會研究教授等により兒童の成績を公表し、兒童の學習奬勵、研究心及興味を助成すること。

三、東京音樂學校生徒をして實地練習の爲め兒童の養護竝びに指導教授の一部を擔當せしむ。

八、出願手續

入園志望者は、一、入園願書（本園より交付する用紙使用のこと）二、樂歷調査表（本園より交附する用紙使用のこと）三、在學證明書竝に成績證明書（現在學校のもの、昭和十二年二月現在のこと、成績は最終學年又は學期のもの）四、（東京音樂學校選科）分教場在學中のものは在學證明書をも添へること　五、考査檢定料を添へ三月一日より三月十日迄に差出すこと。

（『同聲會報』第二二八号　昭和十一年十月　四四～四九頁）

上野兒童音樂園便り

回顧と希望

乘杉嘉壽

本園創立以來、既に滿四ヶ年になるが、入園志望の兒童が、毎年その數に於て大體一定し、所要の人數に對して適度の超過を見てゐることは、誠に喜ばしいことである。創立當時は、一學級約四十名の兒童を收容する豫定であつたが、入園志望者が三、四倍の多數に達したので、一二〇名の入園を餘儀なくされたのであるが、爾來この數が、毎年入園を許可すべき兒童數の基準ともなつたのである。而して現在高等科一年を合して本園兒童は既に三四〇餘名を突破し、新學年に於て更に高等科が一學級增せば、現在の校舍設備では一週間毎日授業をして漸く事足りるといふ盛況を呈し、正しく最大限度のものとなるのである。從つて新學年に募集すべき兒童數も大體過去四ヶ年通りで從來の例に倣ひ、百貳十名以上にその數を增すことの出來ぬことは誠に遺憾ではあるが、本校の現狀に鑑みて正に止むを得ぬ所である。

併し、毎年志望者數があまり超過せぬことは寧ろ有難き仕合せであつて、而かもこれ等兒童の內容實質が、漸時低下するといふことであれば、誠に悲しむべき現象であるが、兒童の素質が年々向上を示し、好調の一路を辿つてゐることは歡喜に絕えぬ次第である。このことは實に東京市或いは近縣の小學校に於て本園に推薦される兒童の實質に就いての詮衡が適切妥當に行はれてゐることを物語るものといへよう。

既に過去四ヶ年の歲月もいつしか經過し始めて本園に入園した兒童達は、やがて高等科の二年ともなるのである。その成長は全く目覺しく、兒童々々と呼稱し乍ら、自分よりも身長の高い男女兒が聲變りをしてゐるのを見て、四ヶ年前の事が昨日のことの樣に回想さ

れて、思はず淡い感傷に浸り、今更の様に驚嘆の眼を瞠ることもある、更に彼等の身體の發達にも増してその藝術的成長の素晴らしさは到底筆舌のよくする所ではなく、彼等の輝しき將來こそ期待さるべきであらう。

されど又、茲に一抹の心配もないではない。曩に學園ニュース第一號に於て述べた如く、本園創立の趣旨は直接には兒童の音樂的教養を高めることを目的としてゐるが間接には音樂教育の最高學府たる本校の使命達成を迅速確實ならしむることに存するのである。果して然らば今後如何程の結果を擧げ得るかといふ事が我々の責任であり又單なる杞憂に過ぎぬかも知れぬが、心の奥に消え去らぬ問題である。卽ち余の眞情は今日迄共に歩んで來た兒童達の將來に多大の希望を抱くものであるが、その爲めには兒童達自身の絶大の努力は勿論のこと、父兄竝に職員各位が、この目的達成の爲めに一致協力せられ、理想の實現に邁進されんことを熱望するものである。卽ち本學園が三ヶ年後に於て高等科の新卒業生を出す時に我等の最初に目堵した結果が如何に現はれるかといふことが重大關心事なのである。我等は待望の三年間を凝視するにつけても、その結果が三年後に直ちに現はれるものとは思はれぬが、今後の三年間は勿論のこと、來るべき年々歳々の努力の蓄積の結果に由ることを思ふにつけても、兒童父兄職員一致協力して彼岸の理想に到達せられんことを今更の様切にに希望する次第である。

次に余が官立音樂學校の監督者責任者として、多數の兒童をお預りしてゐる關係上、父兄各位に一言申添へておきたい。卽ち本園兒童は、單に藝(げい)とか技(わざ)を練磨するのみでなく、更に人格の完成と品位の向上を常に念頭に置いて頂きたいことである。殊に官有の建物や器具を使用する特權を賦與されてゐる本園としては、その責任は愈〻大である。從つて父兄各位におかれても、兒童の言語動作行儀作法は勿論のこと、樂器や教室や學校の一切の物は大切に之を取扱ひ、時に兒童の振舞が、埒を超えたり、分を辨へざる時は、嚴しく訓戒することも又致し方ない所以を了承せられ、兒童に過誤の無き様充分御配慮を相煩はしたいのである。

（『同聲会報』第二三一号　昭和十二年二月　四六～四八頁）

兒童學園便り

卒業式

園長告辭（要約）

第二回卒業證書授與式を行ふに當り來賓竝に兒童父兄各位の御來會を賜り感謝致します。本年の卒業生は六十八名でありまして、昭和九年四月に入園されました、九十八名中當初の目的を一貫遂に今日の榮譽を荷はれた方々であります。

惟へばこの三年間雨の日も風の日も厭はず非常に熱心に勤勉に倦まず撓ゆまず精進されたことは欣快に堪えません。併しこの三年間の勉强は未だ糸口をつけたに過ぎませんから、今後の皆さんの勉學によつて將來益々磨きをかけねばなりません。高等科には定員がありまして皆さんが全部お進みになるわけにも行きませんが、その場合は他にも勉强の道はあります。本校の分教場にお入りになれば來年更に一回高等科受驗の資格が御座います。自分の力を充分力强く伸され大きな高いものへと精進して下さい。

本年の入園志願者を見ますと尋常科一六三名、高等科七〇名、合計二三三名で愈々旺んなものがあります。皆さんは先輩として勉強の甲斐のあることを後輩に示し、今にも増して努力され、この三年間の勉強が無駄にならぬ様に實力を涵養せられんことを望みます。

さて終りに來賓各位に申上げます。皆様の絶大なる御援助御理解により本學園も漸次順調に發展して參りましたことは同慶の至りであります。今後とも一層の御後援を賜りたく存じます。又本日は證書授與式後式の一部として卒業演奏を行ひます。これは來る四月十七日にも行はれます、卒業演奏と相俟つて完了するものでありますから、御參聽を相煩はしたく存じます。御多忙の所をかくも多數の御臨席を得ましたことを厚く御禮申上げます。

答　辭

再び上野の丘にも春が訪れようとしてゐます。思ひ返せば私達がこの懐しい學園に入學したのは三年前の昭和九年の四月でした。櫻の花がこの校庭をうづめてゐましたこゝで勉強が出來るのだと思つてどんなにか胸がおどつたことでせう。それから三年の間、諸先生方の御熱心な御指導に從つて大人でも難かしいと思はれる樣な曲を澤山教へて頂きました。さうして今日目出度く第二回の卒業式を擧げて頂くことの出來ましたことは私達に取つてどんなにか喜ばしいことか知れません。これから後も尙一層諸先生方の御導きを賜はり音樂への修業に滿身の力を以て努力致し園長先生を始め諸先生方の絶大なる御恩の萬分の一にても御報ひ致し度と思ひます。

茲に卒業生一同を代表して謹んで答禮を申し述べます。

昭和十三年三月十八日

上野兒童音樂學園第二回卒業生總代

長谷部愛子

教生謝恩會

恒例の教生謝恩會は三月十日午後四時五十分より本校で行はれた。一同着席、園長の挨拶があり、次いで兒童總代井上愛子さんの感謝の辭、教生へ記念品の贈呈、教生總代の答辭があつた。

可憐な謝辭を左に掲げることゝとする。

謝　辭

遂にお別れ致さねばならぬ日が參りました。

長い間御親切に御世話下さいました先生方に今日お別れを申上げねばなりません事は、誠に御名殘惜しい限りで御座います。

然し先生方には榮ある御卒業で御座いますから、私共は日頃の厚い御鴻恩に對して心からの御禮を申し上げますと共に榮ある御門出を御送り申上げたいと存じます。

先生方に始めて御目にかゝりましてより早くも一年の月日は經ちました。雨につけ、風につけ何くれと御親切に御世話戴きピアノにヴアイオリンに幼い私共の手を取つて優しく御教へ下さいました御恩は實に何にたとへ樣も御座いません。

又樣々の面白い歌など愉快に歌はせて頂きました。その樂しさはいつまでも私共の胸に殘る事でございませう。先生方には今度目出度く御卒業遊ばしますが私達は先生方に御世話頂きました御恩は永く心に刻んで忘れる事は御座いません。

先生方には特に御健康に御注意遊ばされます樣偏に御願ひ申上げ

ます。

拙い言葉では御座いますが一同に代りまして謹んで御禮申上げます。

昭和十二年三月十日

上野兒童音樂學園兒童總代

井上愛子

（『同聲會報』第二三二号　昭和十二年三月　五〇～五二頁）

上野兒童音樂學園樂譜

研究部の事業の一として上野兒童音樂學園樂譜を隨時出版することゝなり、左の通り共益商社書店より發行された。

一〇一、二部合唱　君が代

上野兒童音樂學園編曲

一〇二、二部合唱　あふげば尊し

下總皖一編曲

一〇三、二部合唱　月と蛙の歌

飯田龜代司作歌　下總皖一作曲

一〇四、二部合唱　春の鳥

飯田龜代司作歌　下總皖一作曲

（『同聲會報』第二三四号　昭和十二年六月　七三頁）

國史唱歌レコード吹込

正しい國史を音樂によつて幼ない兒童に教へたい目的から今回藤田繼平博士指導の下に西條八十氏作詞橋本國彦氏作曲の國史唱歌十二曲を六枚のレコードに吹込むこととなりコロムビア會社にて木下保講師指揮の兒童の三十餘名より成る合唱又は獨唱を演奏する。已に吹込みを終りたるものは左通りである。

「國生み」「金鵄の光」「神兵」「日出づる國」「天神さま」「勿來の關」

（『同聲會報』第二三八号　十二月十二日　四四頁）

新學年を迎へて

――特に事變下に際して――

園長　乘杉嘉壽

花咲き鳥歌ふ陽春と共に、本園は尋常科第三回の卒業生を送り今又こゝに尋常科高等科の新入園兒童を迎へることゝなりました兒童達の身心の發達は素晴らしく、その藝術的成長には驚嘆すべきものがあります。送られる者、迎へられる者、皆が唯明日への輝しい希望に燃えて本園は清新な氣分に滿ち溢れてゐます。

學級は年毎に增し、機構は擴大され、內容は整備されて行きます。本園も誕生以來既に滿五年になります。搖籃時代もやうやく過ぎて發展の時代に入つたともいへませう。本園の兒童達も過去數年間の努力の結晶として、素質がよほど向上されて來ました。したがつて又、入園志望者もそれに乎應して洗練され、本年は事變の影響もあつて、數は多少減じてゐる樣ですが粒が揃ひ、程度もよほど高くなつてきて居りますことは、喜ばしいことであります。

學園の趣旨は、直接には兒童の音樂的教養を向上させ、音樂を通して人格を陶冶し、立派な國民を作ることであり、至純至高な國民

精神を兒童の心情に植えつけることであります。又間接には將來の我が國音樂文化の擔當者を幼少のうちから育成して行くことであります。そして我が國の諸文化中立ち遲れの感ある音樂を世界的水準に迄高め、更に國樂創成の大業を荷ふべき人材を養成することであります。その點で本園は本校とは不卽不離の關係にあつて、互に敬し合ひ愛し合つて提携して行くべきものであります。一大家族の一員として協力して合つてこそ圓滿な發展を期待することが出來ます。

目下世界の情勢は緊迫を告げ、我が國は長期抗戰の事變下にあります。私達は音樂を通して國民精神總動員に參加し、各自分を守つて、誠心誠意事に當るべきであります。東亞の狀勢は一變しました。我が國は東亞の盟主として東洋永遠の平和を確立しなければなりません。歷史は古く、時代は常に新しく若いものであります。光輝ある皇室を戴く我が日本は、今や東亞の新狀勢に處して一大飛躍をなすべき時であります。東亞の黎明はあけようとして居ります。我が國はこの世界的使命、歷史的大事業に力强い第一步を踏み入れた所です。この時この際、私達はこの國家的自覺の下に一致協力して國力の充實發展に盡さねばなりません。而してそれは日本文化の發揚に他ならないのであります。卽ち音樂を通してこの歷史的大事業に參加するのであります。その爲めには先づ國民の音樂に對する理解と協力が必要であります。卽ち音樂の理解と普及が急務であります。そして音樂に對する國民的な力强い背景があつて始めて立派な音樂が誕生するものであります。國民一般の音樂的教養の向上音樂的雰圍氣の釀成と相俟つて、音樂文化の創造と人材の養成が可能であります。本園は此の遠大な理想目的の下に不斷の努力を續けて行かねばなりません。國樂の創成といふ大事業は容易なことではありません。そのためには幼少の時からの充分な用意と準備が必要であります。本園はそこから出發するものであります。いはば試金石であり礎石であります而して輝しい將來を約束された選ばれた人達の集りであります。どうか皆さん！　固い信念と强い意志と不斷の努力に依つて、しつかり勉强して下さい。父兄方におかれましても、思ひをこゝに致されて厚き御理解御同情と、絕えざる御鞭撻を祈り上げる次第であります。

（『同聲會報』第二四二号　昭和十三年四月　六一～六二頁）

兒童學園便り

卒業證書授與式

三月十八日（土）午後一時三十分より本校奏樂堂に於て尋常科第四回卒業證書授與式が行はれそれに引續き左のプログラムに依り演奏が行はれた。

曲目

一、ピアノ獨奏　ソナタ　イ長調　岡部照代（モーツアルト）

二、ピアノ獨奏　幻想卽興曲　佐藤愛子（ショパン）

三、ヴアイオリン獨奏　ソナタ　ニ長調　加宮令一郎（ヘンデル）

四、ピアノ獨奏　卽興曲　上代知夫（シューベルト）

五、ピアノ獨奏　貴島和子

ロンド（ソナタ　ハ長調第四樂章）　ウェーバー

六、唱　歌　尋常科卒業生一同

仰げば尊し（二部合唱）

第四回卒業生音樂演奏會

四月十五日午後一時半より左記プログラムに依り尋常科の第四回卒業演奏會が開かれた。

1、ピアノ獨奏　土屋咲子
即興曲ヘ短調　シューベルト

2、ピアノ獨奏　多和子
ソナタ　ヘ長調　モーツアルト

3、ヴアイオリン獨奏　井田ハルミ
協奏曲　イ短調　第三樂章　ヴイヴアルディ

4、ピアノ獨奏　石川治子
ソナタ　變ホ長調　フンメル

5、ピアノ獨奏　小林玲子
イギリス組曲中ノ前奏曲　バッハ

6、ピアノ獨奏　齋藤文子
ロンド　作品二　變ホ長調　フンメル

7、ヴアイオリン獨奏　井上延子
ソナタ　ニ長調　第一・二樂章　ヘンデル

8、ピアノ獨奏　岡村澄子
ソナタ　變ロ長調　第一樂章　モーツアルト

9、ピアノ二重奏　大藏靜子　大藏わか子
ソナタ　第一　ロ長調　第一樂章　クレメンティ

10、ヴアイオリン獨奏　小山百合子
協奏曲　作品第四　ニ長調　第三樂章　ザイツ

11、ピアノ獨奏　照澤惟佐子
即興曲　作品九十ノ四　シューベルト

12、ピアノ獨奏　鈴木英子
スケルツオ　メンデルスゾーン

13、ピアノ獨奏　濱尾照子
幻想即興曲　ショパン

14、ヴアイオリン獨奏　石井薫子
小ソナタ　第一樂章　シューベルト

15、ピアノ獨奏　安藤しづえ
イタリー協奏曲　第一樂章　バッハ

16、ピアノ獨奏　長谷部愛子
ソナタ　變ロ長調　モーツアルト

因に右は去三月十八日に行はれた卒業演奏會に續くものである。

（『同聲會報』第二四八号　昭和十四年三・四月　三一～三二頁）

本校兒童樂園兒童の海軍記念日參加

去る五月二十八日正午より日比谷公會堂に於て行はれた海軍記念日婦人子供大會に、本校兒童樂園兒童二百名が參加し、左の如く獨奏、齊唱、合唱の演奏を行った。

一、齊　唱　兒童樂園兒童
太平洋行進曲
廣瀬中佐（新訂尋常小學唱歌）

一、ヴイオリン獨奏　石井薫子
協奏曲　作品七六　テリオ作曲
第二樂章　アンダンテ　トランクーロ

一、ピアノ獨奏　園田高弘

イタリアン協奏曲　バッハ作曲
第一樂章
一、二部合唱　兒童樂園兒童
我は海の子
兒島高德
夏のひかり
以上

（『同聲會報』第二四九号　昭和十四年五・六月　四九頁）

上野兒童音樂學園尋常科第六回演奏會

十月十四日（土）午後一時半より本校奏樂堂に於て左のプログラムにより開かれた。

曲　目

1　合　唱　一　年
幻想曲（フアンタジー）　ニ短調……モーツアルト
6　ピアノ獨奏　山口敏子
田園調の主題による變奏曲……モーツアルト
7　ヴアイオリン獨奏　宮崎陽子
ソナタ　へ長調　第一、第二樂章……ヘンデル
8　ピアノ獨奏　小田野節子
狂想曲風の回旋曲
（ロンド、カプリチオーゾ）ホ短調……メンデルスゾーン
9　ピアノ獨奏　辻利根子
即興曲（アンプロンプチユ）
作品百四十二　變ロ長調……シューベルト
10　二部合唱　二　年
イ、海……上野兒童音樂學園二部合唱曲集
ロ、兒島高德……〃

――休　憩――

11　ピアノ二重奏
ソナタ　ト長調……モーツアルト・グリーヒ編曲
第一樂章……（第一ピアノ　奈良洋子　第二ピアノ　伊賀淳子）
第三樂章……（第一ピアノ　中村由紀子　第二ピアノ　幡生美那子）
12　ヴアイオリン獨奏
ソナタ　ホ短調　第一樂章……ピアノ　長澤晴子　園田高弘　モーツアルト
13　ピアノ獨奏　川津眞紀子
華麗なる回旋曲（ロンド、ブリランテ）
作品六十二……ヱーバー
14　ピアノ獨奏　眞野英子
狂想曲風の回旋曲（ロンド、カプリチヲ）
作品百二十九　ト長調……ベートーヴェン
15　ピアノ獨奏　大澤秀子
ソナタ　ハ短調　作品十三
第三樂章　回旋曲（ロンド）……ベートーヴェン
16　ヴアイオリン獨奏　宮下綾子
協奏曲　ト短調　第一、第二樂章……ザイツ
17　ピアノ獨奏　山本美奈子

華麗なるポロネーズ　作品七十二　……ウエーバー
18　ピアノ獨奏　松川玲子
協奏曲　ニ短調　……モーツアルト
19　合唱　三年
鎌倉（二部）　……上野兒童音樂學園二部合唱曲集
曉の調（三部）　……新訂高等小學唱歌（三年）

（『同聲會報』第二五一号　昭和十四年九月　四～五頁）

昭和十五年度　上野兒童樂園入園案內要綱

入園定員
尋常科　約八十名　・　高等科　約三十名
研究科　若干名

願書受付
昭和十五年三月一日より三月二十日まで

考査日割
三月二十七日（水）午前八時三十分　尋常科
三月二十九日（金）午前八時三十分　高等科
三月三十日（土）午前八時三十分　高等科

昭和十五年度入園せしむべき兒童は左記の資格を有するものにて入園考査に合格したるもの。

尋常科

一、昭和十五年三月まで小學校尋常科第三學年に在學し、同年四月に第四學年に進級の見込みあるもの。
二、昭和十五年三月まで小學校尋常科第二學年に又は第四學年に在學し、同年四月第三學年又は第五學年に進級の見込みあるものにして技術優秀にして成業の見込みあるもの。
三、特に本園に於て奬勵を必要とする器樂等を志望するもの。

高等科

一、昭和十五年三月まで小學校尋常科第六學年に在學し、同年四月に中學校又は高等女學校に入學の見込みあるものにして、同年三月本園尋常科を卒業するもの。
二、昭和十五年三月まで小學校尋常科第五學年に在學し、同年四月第六學年に進級の見込あるものにして、同年三月本園尋常科を卒業するもの。
三、昭和十五年三月まで中學校又は高等女學校第一學年に在學し（尚引續き在學し）昭和十五年三月本園尋常科を卒業するもの。
四、昭和十五年三月まで中學校又は高等女學校第一學年に在學し（尚引續き在學し）昭和十四年三月本園尋常科を卒業し同年四月より東京音樂學校選科に在學し唱歌・器樂を修業中のもの（選科在學證明書を添へること）
五、昭和十五年三月まで小學校尋常科第六學年に在學し、同年四月に中學校又は高等女學校に入學の見込みあるものにして、人物、音樂技藝優秀と認めるもの。
六、本園に於て特に奬勵を必要とする器樂等を志望するもの。

研究科

研究科へ入園し得る者は本園高等科卒業者に限る。
尚入園考査規定其の他詳細は東京市下谷區上野公園東京音樂學校內上野兒童音樂學園（電下谷六〇一一）宛に問合せられ度し。

（『同聲會報』第二五〇号　昭和十四年七・八月　四一頁）

箏曲科兒童募集

上野兒童音樂學園では昭和八年創設以來唱歌、ピアノ、ヴアイオリン、セロ、理論等の兒童音樂早期教育を實施してあるが今回更に尋常科中に箏曲科を設けて邦樂の早期教育を實施することとした。詳細は直接本園に照會されたし。

上野兒童音樂學園兒童放送

去る二月二十日午後六時子供の時間に樂しい音樂會としてAKから放送した。プログラムは左の通りであつた。

1二部合唱……上野兒童音樂學園兒【ピアノ伴奏】田中立江【指揮】橋本秀次

（イ）「紀元二千六百年頌歌」紀元二千六百年奉祝會撰定東京音樂學校作詞作曲信時潔編曲（ロ）「四季の雨」文部省唱歌下總皖一編曲

2ピアノ獨奏……（イ）「ホラツカプリランテ」（ママ）（ママ）ウエーベル作曲山本美奈子（一三）（ロ）「三十二のヴアリエーション」ベートーヴエン作曲　園田高弘（一三）

3二部合唱……上野兒童音樂學園兒（イ）「海」（ロ）「遠足」文部省唱歌下總皖一編曲

（『同聲會報』二五三号　昭和十五年一・二月　八頁）

上野兒童學園兒童放送

六月十九日午後六時子供の時間に左のプログラムに依りAKから放送した。

1、ピアノ三重奏　　ピアノ　高橋節子
　　ヴアイオリン　高角郁子
　　セロ　堀内靜雄

ピアノ三重奏曲　ハ長調第二樂章　アンダンテ
　　ハイドウン作曲

2、二部合唱　　指揮　柴田睦陸
　　ピアノ伴奏　伊達純
　　上野兒童音樂學園尋常科三年生出演

（イ）故郷……文部省唱歌　下總皖一編曲

（ロ）ひばりの歌……飯田龜代司作詞　下總皖一編曲

（ハ）兒島高德……文部省唱歌　下總皖一編曲

（『同聲會報』第二五五号　昭和十五年五・六月　一〇頁）

（三）校舍使用継続に関する書類

校舍使用繼續願

上野兒童音樂學園ノ御校々舍及校具使用許可期限ハ來ル三月三十一日ヲ以テ滿了ト可相成候處右學園ハ昭和八年四月六日設立以來滿十一ヶ年ニ及ビ既ニ高等科及研究科ノ設置ノ見ルニ至リ入園志願者ハ益々增加ノ盛況ニアリ

國民教養上特ニ音樂教育ニ於テハ尤モ意義アル早教育トシテ教育